مــن الله و رســولــه ﷺ ؟

(باللغة اليابانية)

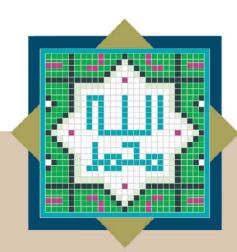
ダールッサラーム

出版販売

リヤド、サウジアラビア

Abdul Hameed

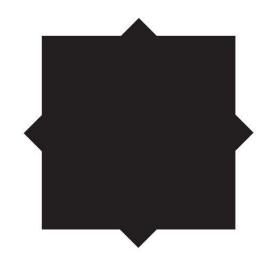
ISBN: 9960-9881-6-3

9 789960 988160

アッラーとその預言者(ﷺ)とは誰か？

編成

ダールッサラーム研究調査部

ダールッサラーム

アッラーと
その預言者(ﷺ)
とは誰か？

アッラーとその預言者(ﷺ)とは誰か？

First Edition: May 2007

Supervised by:
Abdul Malik Mujahid

HEAD OFFICE

P.O. Box: 22743, Riyadh 11416 K.S.A.Tel: 0096 -1-4033962/4043432 Fax: 4021659
E-mail: darussalam@awalnet.net.sa, riyadh@dar-us-salam.com Website: www.dar-us-salam.com

K.S.A. Darussalam Showrooms:

Riyadh
Olaya branch: Tel 00966-1-4614483 Fax: 4644945
Malaz branch: Tel 00966-1-4735220 Fax: 4735221
Suwailam branch: Tel & Fax-1-2860422

- **Jeddah**
  Tel: 00966-2-6879254 Fax: 6336270
- **Madinah**
  Tel: 00966-503417155 Fax: 04-8151121
- **Al-Khobar**
  Tel: 00966-3-8692900 Fax: 8691551
- **Khamis Mushayt**
  Tel & Fax: 00966-072207055
- **Yanbu Al-Bahr** Tel: 0500887341 Fax: 04-3908027
- **Al-Buraida** Tel: 0503417156 Fax: 063696124

U.A.E

- **Darussalam, Sharjah U.A.E**
  Tel: 00971-6-5632623 Fax: 5632624
  Sharjah@dar-us-salam.com.

PAKISTAN

- **Darussalam,** 36 B Lower Mall, Lahore
  Tel: 0092-42-724 0024 Fax: 7354072
- **Rahman Market, Ghazni Street,** Urdu Bazar Lahore
  Tel: 0092-42-7120054 Fax: 7320703
- **Karachi,** Tel: 0092-21-4393936 Fax: 4393937
- **Islamabad,** Tel: 0092-51-2500237 Fax: 512281513

U.S.A

- **Darussalam, Houston**
  P.O Box: 79194 Tx 77279
  Tel: 001-713-722 0419 Fax: 001-713-722 0431
  E-mail: houston @dar-us-salam.com
- **Darussalam, New York** 486 Atlantic Ave, Brooklyn
  New York-11217, Tel: 001-718-625 5925
  Fax: 718-625 1511
  E-mail: darussalamny@hotmail.com

U.K

- **Darussalam International Publications Ltd.**
  Leyton Business Centre
  Unit-17, Etloe Road, Leyton, London, E10 7BT
  Tel: 0044 20 8539 4885 Fax:0044 20 8539 4889
  Website: www.darussalam.com
  Email: info@darussalam.com
- **Darussalam International Publications Limited**
  Regents Park Mosque, 146 Park Road
  London NW8 7RG Tel: 0044- 207 725 2246
  Fax: 0044 20 8539 4889

AUSTRALIA

- **Darussalam:** 153, Haldon St, Lakemba (Sydney)
  NSW 2195, Australia
  Tel: 0061-2-97407188 Fax: 0061-2-97407199
  Mobile: 0061-414580813 Res: 0061-2-97580190
  Email: abumuaaz@hotamail.com

CANADA

- Islmic Books Service
  2200 South Sheridan way Mississauga,
  Ontario Canada L5K 2C8
  Tel: 001-905-403-8406 Ext. 218 Fax: 905-8409

HONG KONG

- **Peacetech**
  A2, 4/F Tsim Sha Mansion
  83-87 Nathan Road Tsimbatsui
  Kowloon, Hong Kong
  Tel: 00852 2369 2722 Fax: 00852-23692944
  Mobile: 00852 97123624

MALAYSIA

- **Darussalam International Publication Ltd.**
  No.109A, Jalan SS 21/1A, Damansara Utama,
  47400, Petaling Jaya, Selangor, Darul Ehsan, Malaysia
  Tel: 00603 7710 9750 Fax: 7710 0749
  E-mail: darussalm@streamyx.com

FRANCE

- **Editions & Librairie Essalam**
  135, Bd de Ménilmontant- 75011 Paris
  Tél: 0033-01- 43 38 19 56/ 44 83
  Fax: 0033-01-43 57 44 31
  E-mail: essalam@essalam.com.

SINGAPORE

- Muslim Converts Association of Singapore
  32 Onan Road The Galaxy
  Singapore- 424484
  Tel: 0065-440 6924, 348 8344 Fax: 440 6724

SRI LANKA

- Darul Kitab 6, Nimal Road, Colombo-4
  Tel: 0094 115 358712 Fax: 115-358713

INDIA

- Islamic Dimensions
  56/58 Tandel Street (North)
  Dongri, Mumbai 4000 009,India
  Tel: 0091-22-3736875, Fax: 3730689
  E-mail:sales@irf.net

SOUTH AFRICA

- Islamic Da'wah Movement (IDM)
  48009 Qualbert 4078 Durban,South Africa
  Tel: 0027-31-304-6883 Fax: 0027-31-305-1292
  E-mail: idm@ion.co.za

アッラーとその預言者(ﷺ)とは誰か？

編成

ダール・アッサラーム研究調査部

編集

アブドッラフマーン・アブドッラー
レイモンド・J・マンデローラ

ダールッサラーム

出版販売

リヤド、サウジアラビア

慈悲深く慈愛あまねきアッラーの御名において

「アッラーこそは、７層の天とそれと同様の（７層の）
大地を、創造されたお方である。
（アッラーの）御命令はそれらの間から下って来る。
それによってアッラーが 全能であり、
またアッラーの御知識が全てを確かに包括していることを、
あなた方に分からせるためである。」
（離婚章 65：12）

「実にムハンマドは、１人の使徒に過ぎない。
彼以前にも使徒たちが死んでいったのだ。
もし彼が死ぬか、または殺されたりしたら、
あなたがたは（信仰から）踵を返すのか。
しかし誰が踵を返そうとも、それは少しも
アッラーを損なうことはない。
アッラーはかれに感謝する者たちに
報奨をお与えになる。」
（イムラーン家章 3：144）

出版社の言葉

本書は、「真実を求める人へ」と題するシリーズの一部です。真実を求める者はいかなる者であっても、私たちがどこから来て、そしてどこへ行こうとしているのかを知らなければなりません。本当に真実は存在するのでしょうか？それはどのような形なのでしょうか？それはどのようにして存在するのでしょうか？全ての物事の始まりは、創造主であるアッラーの御許にこそあります。そしてかれ－つまりアッラー－を最も知っていたのが、ムハンマド（ﷺ）[1]だったのです。私たちは本書がアッラーのご意思とともに、この最も重要な課題における簡潔な入門書としての役割を果たすよう願っています。

ダールッサラーム社は、このシリーズを新しいムスリム及びムスリムではない方々向けに、非常に広範な課題を扱ったバランスの取れた概説書として企画しました。大きな課題と取り組むときは、まずその根本や基本を学ぶことが必要です。そしてそうすることで得たものは、その後の学習でも常に役立つことでしょう。アッラーはその啓典クルアーンの中で、幾度も私たちに知識を求めるよう命じておられますし、知識と理解をもった人々に関しても言及されています。今日ではその人が誰かを知るよりも、その人が何を持っていて何を提供できるかが問題にされがちです。また真理を愛する人であるよりかは、世渡り上手な賢い人であることが重要視されがち

[1] アラビア語で「サッラーッラーフ・アライヒ・ワサッラム」という祈願の言葉で、ムスリムは預言者ムハンマドの名が言及される時にこう言う事が推奨されています。その意味は「彼にアッラーからの祝福と平安あれ」といったものです。

です。また他人を理解することより、いかに彼らを利用できるかという知識があるかということが、より人の尊敬を招きます。こういう時代の中で、弊社は可能な限りの手段を尽くして、自らを「真実を求める人」と見なす人たちを応援して行きたいのです。

なお本書中でクルアーンを引用するときは、常にその章の名称とその番号、次いで節の番号を記載するようにしました。

ダールッサラーム総責任者

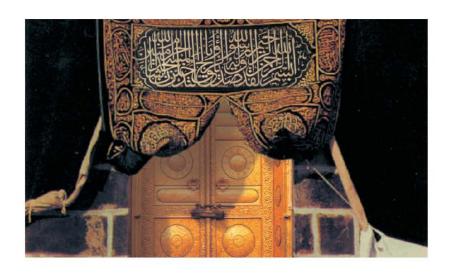
アブドル・マーリク・ムジャーヒド

アッラーとは誰か？

アッラーとは、真実にして唯一の崇拝すべき対象であり主である存在に対する、正しい名称です。アッラーは必然的に自存されているお方であり、その最も美しい尊称は、かれの様々な神的属性を明らかにしています。クルアーンには次のように書かれています。

﴾かれこそは、かれの他に崇拝すべきものがないところのアッラーであられる。全ての所有者、最も神聖にして、あらゆる欠点から免れているお方であり、平安の源であり、全ての創造物を監視されているお方。この上なく偉大で、全てがかれに屈服し、至上にあるお方。（人々が）かれと共に拝しているものとは無縁の高きにあるアッラーにこそ讃えあれ。かれこそはアッラーであられる。創造主であり、全てを無から創り出し、あらゆる形を思いのままに授けられるお方。最も美しい御名はかれに属する。天地の全てのものはかれを讃える。本当にかれは偉力ならびなく英明なお方であられる。﴿（集合章 59：23，24）

アッラーは唯一不可分で、他の何ものにも比しないお方です。かれには子孫もなければ、配偶者も同格者もありません。かれこそが宇宙の唯一の創造主で、維持者です。かれの本質は、他のあらゆる本質と異なっています。かれが何かに含まれることもなければ、かれの中に何かが含まれることもないのです。「かれに似たものは存在しない」のです。

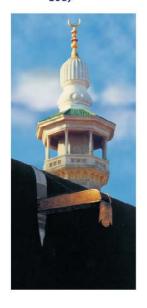
﴾言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。アッラーは(他の何をも必要とせず)自存されるお方である。(かれは)御産みなさらないし、 御産れになられたのでもない。そしてかれに比べ得る、何ものもない。」﴿(純正章112：1－4)

アッラーは、この世の全ての物事がその御手にかかっているところの創造主であり、全知全能のお方です。

﴾(かれこそは) 天と地の創造者である。かれが何かを決められるときには、それに対して「あれ。」と仰せになられるだけで、それはたちまち存在するのである。﴿(雌牛章2：117)

また、かれの命令に抵抗したりその決定を変更したりできる者はありません。かれは全てを包む、この上ない慈悲を持ったお方です。

﴾ 本当にあなたは、慈悲深い者の中でも最も慈悲深いお方です。﴿（高壁章 7：151）

またクルアーンにはこうもあります。

﴾ われの慈悲は、全てのものにあまねく及ぶ。﴿（高壁章：156）

かれは全ての行いにおいて最も英明なお方であり、全ての判決において公正なお方です。その公正さは、何ものもその枠から遊離することが出来ないところの、全宇宙の秩序を管理しています。クルアーンにはこうあります。

﴾ アッラーは、かれの他に崇拝すべきいかなるものもないことを立証なされた。天使たちも、正義を護る知識を授かった者もまた（それを証言する）。偉力ならびなく英明なかれの他に、崇拝すべきいかなるものもないのである。﴿（イムラーン家章 3：18）

誰もアッラーの王権において何かを共有することはありません。アッラーはそこにおいて援助者も助役も必要とされず、ましてや息子を有することなどはありません。

かれは7層の天の上にある玉座におられますが、その形はかれの威厳にふさわしいものです。クルアーンにはこうあります。

﴾ 本当にあなたがたの主はアッラーであられる。かれは6日間で天と地をお創りになり、それから玉座に座された。かれは昼の上に夜を覆わせ、夜に昼を覆わせられる。また

かれは太陽、月、群星を、命に服させられる。ああ、かれこそは創造し統御される御方ではないか。万有の主アッラーに祝福あれ。﴿（高壁章 7：54）

﴾かれは、寛容にして博愛ならびない御方。栄光に満ちた、至高の玉座の主。かれは御望みのことを、遂行なされる。﴿（星座章 5：14－16）

アッラーはその最後の啓典であるクルアーンを、最後の預言者であるムハンマド（ﷺ）に啓示されました。それは彼がイスラームの教えを、全人類に伝達させるがためでした。クルアーンにはこうあります。

﴾言ってやるがいい。「人々よ、わたしはアッラーの使徒として、あなた方全てに遣わされた者である。天と地の大権は、かれのものである。かれの他に真に崇拝すべきものはなく、かれこそは生を授け死を与える御方である。だからアッラーと、アッラーとその御言葉を信仰する文盲の使徒であるその預言者を信じ、彼に従うのだ。そうすればきっとあなたがたは導かれるだろう。」﴿（高壁章 7：158）

威力並びないアッラーにはあらゆる高貴な属性があり、またかれはあらゆる欠点から無縁なお方です。クルアーンにはこうあります。

﴾アッラーはかれの他に崇拝すべきものがなく、永生かつ自存される御方である。まどろみも眠りも、かれをとらえることはない。かれにこそ天地にある全てのものが属する。かれのお許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことができようか。かれは（人々の）現在も未来もご存知である。かれの御意に適ったことの他、彼らはその知識について、何も会得するところはないのである。かれの玉座は天地を覆って広がり、この２つを守って、疲れも覚えられ

ない。かれは至高にして至大であられる。》（雌牛章 2：255）

アッラーは主であり、創造主であり、主権者であり、全ての執行者です。かれこそ真に崇拝すべき存在であり、崇拝されているその他の全ては空虚なのです。かれは単一にして唯一であり、その神性と主性、美名と属性において並ぶもののないお方です。クルアーンにはこうあります。

《（かれは）天と地、またその間にある全ての主であられる。だからかれを崇拝し、かれへの奉仕のために耐え忍ぶのだ。一体あなたは、かれに匹敵する何かを知っているというのか。》（マルヤム章 19：65）

アッラーは永続し、生命に糧をお与えになるお方です。かれは全知で、秘密のものも露わなものも大きなものも小さなものも、全てを知り尽くしておられます。クルアーンにはこうあります。

《あなたがたが言葉を秘めていても、またそれを露わにしても、かれは胸の内をご存知である。かれが自ら創造されたものを、知らないことがあろうか。かれは、深奥を理解し通暁なされる。》（大権章 67：13－14）

《（モーゼは）言った。「それに関する知識は、書冊に記されて私の主の御許にあります。私の主は誤りを犯すこともなく、忘れることもありません。」》（ター・ハー章 20：52）

またかれの知識でとらえられないものはなく、静なるものも動いているものもかれ がご存じでないことはありません。

《地であろうが天であろうが、ごく微小なものでさえあなたの主のご存知でないものはない。またそれより小さい

ものでも大きいものでも、つまびらかな書冊に記されないことはない。﴿（ユーヌス章：10：61）

アッラーはその慈恵が全てを包む、最も慈愛遍ねく慈悲深い御方です。かれは不正や抑圧などということから遠くかけ離れたところにあります。

﴾ あなたの主は誰も不当に扱われない。﴿（洞窟章 18：49）

﴾ アッラーは少しも人間を害されない。しかし人間が自らを害するのである。﴿（ユーヌス章 10：44）

誰も、アッラーが何かを実行されるそのお力をくじくことは出来ません。かれが 何かを欲される時には、ただ「在れ」と言われれば、それは存在するのです。

﴾ 天にあり地にある何ものも、アッラーをくじくことは出来ないのである。本当にかれは全知にして全能であられる。﴿（創造者章 35：44）

また天と地を維持することは、かれにとって何の労を要することでもありません。

﴾ かれの玉座は天と地を覆って広がり、この２つを守って、疲れも覚えられない。かれは崇高にして至大であられる。」﴿（雌牛章 2：255）

かれは永遠に生きられ、自存されるお方です。かれはまどろみや眠りに襲われることもありません。また天地の王国はかれに属します。

﴾ 天と地の大権は、アッラーに属する。かれはお望みのものを創造される。かれはお望みのものに女児を授け、 またお望みのものに男児を授けられる。また男と女を混ぜ（て授け）、 お望みのものを不妊になされる。 実にかれ

は全知にして強力であられる。﴿（相談章42：49－50）

かれは顕わなものも不可視なものもご存知です。生物は皆アッラーにその糧を依存しており、アッラーはそれらの住家も休息場所も全てご存知なのです。

﴾実にアッラーにのみ、（審判の）時の知識は属するのである。またかれは慈雨を降らせられ、胎内にあるものをご存知である。だが（人間は）誰も明日自分が何を稼ぐかを知らず、また誰も自分が何処で死ぬかを知らない。本当にアッラーは全知にして全てに通暁されている。﴿（ルクマーン章31：34）

かれの言葉は最も正しく、またかれは最も公正な審判を下します。

﴾あなたの主の言葉は、正しく公正な形で完成された。﴿（家畜章6：115）

アッラーはその本質や属性において、あらゆる被創造物から高遠なところにあります。クルアーンにはこうあります。

﴾実にアッラーは、偉力並ぶものなく英明であられる。﴿（雌牛章2：220）

﴾かれは、そのしもべたちの上におられる至高者であり、かれは英明であり全知であられる。﴿（家畜章6：18）

アッラーのみしるしは、あらゆる物の中に存在しています。クルアーンはその多くの箇所で、私たちがそれらのみしるしを熟慮す

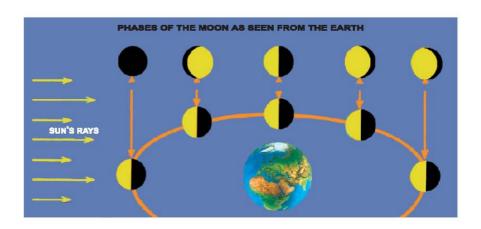
るよう、注意を喚起しています。そうすることで私たちがアッラーの主性を信じ、かれの御許に還り、かつかれを崇拝することへと導いてくれるのです。

﴾（アッラーが）土からあなた方（の祖先であるアダム）を創られたのは、かれのみしるしの一つである。そしてあなた方人間は（地上に）散開した。またかれがあなた方自身から、あなたがたのために配偶者を創られたのは、かれのみしるしの一つである。あなた方は彼女らによって安らぎを得、アッラーはあなた方の間に愛情と慈悲の念を植え付けられた。実にその中には、考え深い者へのみしるしがある。また諸天と大地の創造と、あなたがたの言語と肌色の相違は、かれのみしるしの一つである。そこにこそ知者にとってのみしるしがある。

またかれが、あなた方が夜に眠り、昼には（活動して）かれに恩恵を求めることが出来るようにしてくれたのも、かれのみしるしの一つである。実にその中には、耳を傾ける者へのみしるしがある。またかれが、恐れと希望の稲光をあなた方に示され、天から雨を降らせ、旱魃した後の大地を甦らせられるのは、かれのみしるしの一つである。実にそこにこそ、思慮ある者へのみしるしがある。また天と地がかれの御命令によって打ち建てられたのは、かれのみしるしの一つである。そこでかれがあなた方に一声呼び掛けられれば、あなた方はたちまち大地から引き出される。天と地にある全てのものは、かれに属する。全ての存在は、かれに従順に仕えているのだ。﴿（ビザンチン章 30：20－26）

﴾（アッラーは）あなた方に見える柱もなしに諸天を創られた。そして地上にはしっかりと山々を据えて、あなたがたが地上で揺り動かされないようにされ、またそこに様々な動物を散開させられた。またわれら（アッラーのこと）は天から雨を降らせ、あらゆる素晴らしい雌雄の植物類をそこに生育させた。これがアッラーの創造である。アッラー以外のもので創造したものがあれば、われに示してみよ。実に罪悪者たちは、明らかな迷いの中にいる。﴿（ルクマーン章 31：10－11）

﴾実にアッラーこそが、穀粒や堅い種子を裂き開くお方である。かれは死から生を引き出し、また生から死を引き出される。それがアッラーであるのだ。それなのになぜあなた方は背き去るのか。かれは夜明けを打ち開く方であり、また夜を休息のために割り当て、太陽と月を計算のために置かれた。それが、偉力並びなく全知であら

れる方の摂理である。そしてかれこそは、あなた方が暗黒の陸や海でも導かれるがために、あなた方のために星々を創られた。われら（アッラーのこと）は知識ある人々に、みしるしの詳細を明らかにした。またかれこそは、あなた方を１人の者（アダム）から創られたお方である。そしてあなた方には、安住と寄留の場所がある。実にわれらは、理解ある人々にみしるしの詳細を明らかにした。またかれこそは、雨を天から降らすお方である。われらはこれをもって全ての植物を芽生えさせ、そこから緑を茂らせ、そしてそこから積み重なる穀物類を作り出す。またナツメヤシの花序からはたわわに垂れ下がった房がなり、またブドウ、オリーブ、ザクロなど、同種異種の果実からなる果樹園を作り出す。その果実が結び、そして成熟するのを観察するのだ。実にそこには、信仰する人々へのみしるしがある。﴿（家畜章6：95―99）

またアッラーの崇高な属性において比肩するものはありません。かれの公正さは 完全なものであるので、誰もかれから不正を被ることはありません。またかれのしもべ に対する監査と知識は完全ですから、彼らの行いについてもかれの知識は十全です。

被造物が行為を起こす前の秘められた意図でさえ、常にかれの知識の元にあるのです。

﴾ 実にかれは、顕わなものも秘められたものもご存知である。﴿（至高者章 87：7）

﴾ あなた（ムハンマド）が何をするにしても、またクルアーンのどの部分を読誦していても、またあなた方がどんな行いをしようとも、あなた方がそれに没頭している最中、われら（アッラーのこと）は必ずあなた方の証人であるのだ。天であろうが地であろうが、塵ほどの重さのものでさえも、あなた（アッラー）の知から免れるものはない。そ

れより小さいものでも、大きいものでも、明白な書物の中に（記されて）ないものはないのである。》（ユーヌス章10：61）

《幽玄界の鍵はかれの御許にあり、かれの他にそれを知る者はない。かれは陸と海にある全てのものをご存知である。一枚の木の葉でも、かれがそれを知らずに落ちることはない。また大地の暗闇の中の一粒の穀物でも、湿っているものでも乾いているものでも、明瞭な天の書の中に（記されて）ないものはないのである。》（家畜章6：59）

《アッラーは各々の女性が、妊娠するところのものをご存知である。またかれはその子宮が（妊娠期間において通常より）短縮されるか、また延長されるかもご存知である。全てはかれの御許で、定め測られているのだ。かれは幽玄界も現象界も知っておられる方で、偉大にして至高のお方であられる。あなた方が言葉を潜めても顕わにしても、あるいは夜に潜んでも昼に明示しても、同様なのである。》（雷電章8－10）

全ての天啓の源泉

全ての天啓宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラームなど）の啓典の源は1つです。クルアーンにはこうあります。

﴾（アッラーは）真理をもってあなたに啓典を下され、それ以前に啓示されたものの確証とされた。また（かれは）トーラーと福音を下された。（それらは）以前の人々にとってのお導きであったが、（今かれはまた正道と虚妄の）識別をお下しになる。実にアッラーのみしるしを偽りであるとする者たちには、厳しい懲罰がある。アッラーは偉力ならびなく、応報の主であるのだ。﴿（イムラーン章 3：3, 4）

アッラーはただ1つのことを目的として、啓示を下されました。それは、現世と 来世における幸福へと導いてくれる正しく真っ直ぐな道へと、人々を誘うためなのです。つまり至高のアッラーの唯一性を認め、かれのみをイバーダ（崇拝）するということです。クルアーンにはこうあります。

﴾実にこのクルアーンは、正しい（道への）導きであり、また善い行いをする信仰者たちに偉大な報奨の吉報を伝えるのだ。﴿（夜の旅章 17：9）

﴾ラマダーンの月こそは、人類の導きとして、また導きと（正道と迷妄の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。﴿（雌牛章 2：185）

ムハンマド（ﷺ）以前の全ての預言者は、それぞれの民に遣わされました。しかしムハンマド（ﷺ）だけは、全人類に向けて遣わされたのです。

クルアーンとは？

クルアーンはアッラーの御言葉であり、それは被造物でもなければ、被造物の属 性で表されるものでもありません。アッラーはクルアーンを、天使ジブリール（ガブリエル）を通して 23 年間に渡り、様々な出来事に関して段階的にムハンマド（ﷺ）に啓示したものなのです。

﴾そしてクルアーンは、あなた（ムハンマド）がゆっくりと人々に読んで聞かせるために、分割して下したのだ。そしてわれら（アッラーのこと）は、クルアーンを（徐々に、様々な出来事に関連して）下すのである。﴿（夜の旅章 17：106）

預言者ムハンマド（ﷺ）は彼に啓示されたクルアーンの章句をその場で暗記し、それからまたその場でそれを教友たちに詠んで聞かせていました。し かし後には、クルアーンが啓示されるとすぐ、

預言者ムハンマド（ﷺ）は、ムスリムがその礼拝の中でクルアーンの章句を読誦するように命じました。またアッラーは、ムスリムの間に諍いがあったりした場合の最終的な判決として、クルアーンをその基盤とすることを命じました。

クルアーンの最終的な形での編纂は、多くの暗誦者がまだ存命中であった時期に完遂されました。

アッラーは、かれがクルアーンを審判の日まで（改変の手から）保護されることを誓われています。クルアーンにはこうあります。

﴾実にわれら（アッラーのこと）こそは訓戒（クルアーン）を下し、そして必ずそれを守護するのである。﴿（アル＝ヒジュル章 15：9）

こうして今日でもムスリムは、一文字たりとも追加されたり削除されたりしていない、預言者ムハンマド（ﷺ）の時代に読まれていたものと何一つ変わらないクルアーンのテキストを読んでいるのです。

預言者ムハンマド（ﷺ）以前の預言者たちに彼らの真実性を確かなものとするために与えられた奇跡と、預言者ムハンマド（ﷺ）に与えられた奇跡との違いは、前者が彼らの存命中に起こったのに対し、預言者ムハンマド（ﷺ）の奇跡であるクルアーンは、ジン（精霊）と人間に挑戦する形で復活の日まで有効かつ継続し続けるということです。クルアーンにはこうあります。

﴿このクルアーンは、アッラー以外の何かによってもたらされるようなものではない。それどころかこれは、それ以前の（諸啓典の）確証であり、疑念の余地もない、万有の主から下された（諸啓典に関する）詳説なのである。それとも彼ら（不信仰者たち）は、「彼（ムハンマド）がそれを作ったのだ。」と言うのか？（ムハンマドよ、）言ってやるがいい。「それなら一章だけでもいいから、それに相当するものを作って持って来てみなさい。そしてあなた方の言葉が真実ならば、アッラー以外にあなた方を助けることの出来る援助者に頼んでみなさい。」﴾（ユーヌス章 10：37，38）

包括的な法・クルアーン

クルアーンは、イスラーム法実践上の包括的法源です。つまりそこには法律を始め、主たる目的や道徳的教え、信仰教義など、全てのムスリムが遵守すべきものが含まれているのです。イスラーム法はムスリムのみに適したものではなく、あらゆる時代において人間一般に適したものです。イスラーム法は主及び、人間を含む全創造物に対しての各人の公的・私的義務行為を規定することによって、人間の行動を調整しているのです。

「(クルアーンは) 最初はうんざりさせるかもしれない。しかし読み続ける内にあなたを惹きつけ、驚愕させ、最後には私たちを感嘆へと誘う。その手法はその内容と目的とあいまって壮大かつ猛烈であるが、時にその中に真の崇高さを見出すことが出来る。ゆえにこの本は、全時代を通じてその影響力を効し続けていくのだろう。」(T. P. Huges のイスラーム辞典、第 526 頁に引用されたゲーテの言葉)

「(クルアーンは) 時間的にも、それどころか精神上の発展という点からも遠く隔たった読者の内に、強烈で一見相反するかに見えるような様々な感情を及ぼす作品である。(またそれは) それを精読するによって抱くかもしれない矛盾感を圧倒してしまうだけでなく、その反対する感情を驚愕と感嘆へと変換してしまう。このような作品は実に人間精神の素晴らしい結実であり、また人類の将来を熟考する全ての観察者にとっての最大の関心事という問題となるに違いない。」(T. P. Huges のイスラーム辞典、第 526～527 頁に引用されたシュタインガス博士の言葉)

「このクルアーンのような文学作品は、主観的・審美的趣味による先入観に汚されたある種の原理をもって推し量られるべきではないのではないか。それよりはむしろ、ムハンマドの同時代に生きた者たちやその教友らの内に及ぼした効果でもって判断されるべきであろう。それ一つまり今日までアラブ人の精神を支配し続けている、様々で深遠な概念に満ちているところのクルアーン一が、

現在に至るまで互いに相対し隔絶した諸要素を１つの簡潔でよくまとまった形に結びつけ続けているほどの強力さと確信性をもって彼（ムハンマド）の言葉を聴く者たちの心に訴えかけていたとするならば、その雄弁さは完璧であったということになるだろう。というのもそれこそが、野蛮な部族社会から1つの文明国家を創出し、歴史の古いカバーの上に1本の鮮やかで新しい糸をつむいだのだから。」（同上、第528頁。）

「近代的知識を導きとしてそれ（クルアーン）に関する完全な客観性を追及した研究は、既に何度も折に触れて示したように、それら２つ（つまりクルアーンと近代的知識）の間に何の矛盾もないという結論に至った。ムハンマドの時代の知識レベルを考慮すれば、当時の人間がこのような発言をしたとは考えられないのである。このような見地はクルアーンの啓示の独自性を際立たせ、そして同時に、公正な科学者たちが単なる物質的証明による説明すら不可能であることを認めざるをえないところの１つの要素なのである。」（モーリス・ブカイユ『クルアーンと近代科学』1981年、第18頁）

イエスとは誰か？

イスラームにおいて、イエス（ﷺ）[2]は非常な尊敬を受けています。しかしその一方で、イスラームは彼の神性、または彼が神の御子であるという信仰などを受け入れることはありません。こういった概念や、あるいは神に関しての三位一体論、またはそれが精神的なものであれ肉体的なものであれ、イエスが神の具現であるなどという考えは、イスラームでは完全に拒否されています。クルアーンにはこうあります。

﴾啓典の民よ、あなた方の宗教において一線を越すことがあってはならない。またアッラーに関し、真実以外を語ってはならない。マリヤの子メシア・イエスは、アッラーの使徒の1人に過ぎないのだ。（彼は）マルヤムに授けられたかれ（アッラー）の御言葉であり、かれがお創りになられた１つの魂なのである。ゆえにアッラーとその（全ての）使徒たちを信じなさい。そして「（神は）3つ」などと言ってはならない。そのようなことは止めるのだ。それこそがあなた方にとってよいことである。実にアッラーは唯一の神性であられる。かれこそは全てを超越されているお方であるというのに、かれに子があることがあろうか。天地にある全てのものは、アッラーに属する。アッラーこそは万全の管理者であられる。メシアも、また（アッラーの）お傍に侍る天使たちも、アッ

[2] アラビア語の「アライヒッサラーム」という言葉で、「彼に平安あれ」といった意味です。預言者や使徒に対する祈願の言葉です。

ラーのしもべであることを軽んじて驕り高ぶったりすることは断じてない。かれはかれに仕えることを軽んじて高慢である者たちを、かれの御許に集められる。》（婦人章4：171, 172）

《アッラーがこう仰られた時のことを思い起こすのだ。「マリヤの子イエスよ、われがあなたとあなたの母に授けた、われの恩恵を思い起こすのだ。われは聖霊によってあなたを強め、揺り籠の中でも、成人してからも人々に語らせるようにした。またわれは啓典と英知と律法と福音をあなたに教えた。またあなたはわれの許しの下に、泥で鳥を形作り、われの許しの下に、これに息吹して鳥とした。あなたはまたわれの許しの下に、盲人と癩（らい）病患者を癒した。またあなたはわれの許しの下に、死者を甦らせた。またわれはあなたが明証をもってイスラエルの子孫の下に赴いた時、かれらの手を制して守ってやった。彼らの中の不信仰者は、『これは明らかに魔術に過ぎない。』と言った。

その時われら（アッラーのこと）は彼の弟子達に伝えて、『われを信じわが使徒を信じなさい。』と言った。彼らは言った。『私たちは信じます。ゆえにあなたは、私たちがムスリムであることを立証してください。』」

彼ら弟子たちが、こう言った時のことを思い起こせ。「マリヤの子イエスよ、あなたの主は私たちのために、（食べ物を並べた）食卓を天から御下しになることが出来るか？」彼（イエス）は言った。「あなた方が信仰者なら、アッラーを畏れなさい。」

彼らは言った。「私たちはその(食卓)で食べて、安心したいのだ。またあなたの言葉が真実であることを知り、そして私たちがその証人になることを望んでいるのだ。」

マリヤの子イエスは(祈って)言った。「アッラー、私たちの主よ、私たちのために(食物を並べた)食卓を天から御下し下さい。それをもって私たちへの最初の、また最後の宴とし、あなたからのみしるしとして下さい。そして私たちに糧をお与え下さい。本当にあなたこそは最も優れた養い主です。」

アッラーは仰られた。「実にわれは、それをあなた方に下そう。しかしその後に及んであなた方の中で不信仰を犯す者がいれば、われは世の誰に対しても行わなかったような懲罰で彼を罰するであろう。」

またアッラーがこのように仰られた時のことを思い出すのだ。「マリヤの子イエスよ、あなたは人々に『アッラーだけでなく、私と私の母のことも神として崇めなさい』と言ったのか?」彼は申し上げた。「あなたこそは全てを超越されるお方。私には私に権利のないことを、言ったりする権利がありません。もし私がそれを言っていたならば、必ずあなたはそれを知っておられます。あなたは私の心の内を知っておられますが、私はあなたの御心の内を知りません。実にあなたは不可知の領域を熟知なされています。

私はあなたに命じられたこと、『私の主であり、あなた方の主であられるアッラーを崇めなさい。』ということ以外は、彼らに何も言っていません。私が彼らの中にいた間は、私は彼らの証人でした。しかしあなたが私を召喚さ

れた後は、あなたが彼らの監視者であり、またあなたは全てのことの立証者であられます。」﴾（食卓章 5：110－117）

またクルアーンは、イエス（عليه السلام）の誕生について以下のように語っています。

﴿またこの啓典の中で（言及された）、マリヤ（の物語を）について話すのだ。彼女が家族から身を遠のけ、（エルサレムの）東方に引き籠った時のこと。

彼女は彼らから身を覆って隠したが、その時われはわが聖霊（ガブリエル）を彼女に遣わした。彼は一人の立派な人間の姿で彼女の前に現れた。

彼女は言った。「あなたに対し、慈悲深き御方の御加護を祈ります。もしあなたが主を畏れておられるならば（私に危害を加えないで下さい）。」

かれは言った。「実に私は、清純な息子をあなたに授ける（知らせの）ためにあなたの主から遣わされた使徒である。」

彼女は言った。「どうして私に子供が出来ましょう？まだ誰も私に触れたこともなく、また私は不貞な女でもないというのに。」

かれは言った。「このように（アッラーはお望みになられたのだ）。あなたの主は仰られたのだ。『それはわれにとって容易なことである。それはわれが彼（マリヤの子イエス）を人々へのみしるしとし、またわれからの慈悲とするためなのである。（これは既に）アッラーがお定めになられたことなのだ。』」

こうして彼女は彼（イエス）を妊娠し、遠い場所に引き籠った。

　だが陣痛が、彼女を1本のナツメヤシの幹に赴かせた。彼女は言った。「ああ、こんなことになる前に死んでしまったらよかったのに！そして忘れ去られてしまったらよかったのに！」

　すると彼女の下方から彼女をこう呼ぶ声があった。「悲しむことはない。あなたの主はあなたの足下に、小川を創られた。

　そしてナツメヤシの幹を、あなたの方に揺らしてみなさい。新鮮で完熟したナツメヤシの実が、あなたの下に落ちてくるだろう。

　（それらを）食べ、かつ飲み、喜ぶのだ。そしてもし誰かに遭ったりしたら、こう言うのだ。『私は慈悲深き主に、斎戒の誓いをしました。ゆえに今日は、誰ともお話することができません。』」

　それから彼女は、彼（イエス）を抱いて人々の元に戻って来た。彼らは言った。「マリヤよ、あなたは何と大変なことをしてくれたのか！

　アーロンの（血族の）姉妹よ、あなたの父は悪い人ではなかったし、あなたの母親も不貞な女ではなかったのに。」

　そこで彼女は、彼（イエス）を指し（彼に尋ねてみるよう言っ）た。彼らは言った。「揺り籠の中の赤ん坊に話すというのか！？」

　（その時）イエスは言った。「私は誠にアッラーのしもべです。かれは私に啓典をお与えになり、また私を預言

者とされました。

またかれは、私がどこにいようとも私を祝福多き者として下さいます。また私が生きている限り礼拝を捧げ、喜捨をするように命じられました。

また私を母に対する孝行者とされ、高慢で不幸な者とはされませんでした。

私の誕生の日、逝去の日、復活の日に、私に平安がありますように。」

これこそマリヤの子イエス。彼ら（ユダヤ教徒やキリスト教徒）は（イエスがマリヤの子であること）について疑念を抱いているが、これこそが真実の言葉なのである。

アッラーに子供があるなどということはありえない。かれこそは全てを超越されているお方である。かれが何かを定められ、「あれ。」と仰れるだけで、それはたちまち存在するのである。

実にアッラーこそが私とあなた方の主なのである。それゆえかれを崇めるのだ。それこそが正しく真っ直ぐな道というものである。》（マルヤム章 16−36）

一般的にキリスト教徒がそう思い込んでいるように、イエスは十字架による磔（はりつけ）の刑にあって亡くなったわけではありません。実のところはアッラーが、彼をかれの御許に召されたのです。磔になったのは、実はイエスではない別の人でした。クルアーンにはこうあります。

《そして「私たちはアッラーの使徒であり、マリヤの子メシアであるイエスを殺したのだ。」という彼らの言葉ゆえに（アッラーは彼らユダヤ教徒たちの心を封じられた）。

しかし彼らは彼（イエス）を殺してもいなければ、十字架に磔にしてもいない。只彼らの目にそのように映っただけなのだ。（磔にされた男に関して）意見の相違をみた者たちは、彼が本当にイエスだったかどうか疑念に陥っている。彼らにはそのことに関する知識はないが、只憶測しているだけに過ぎない。（その男をイエスと）確信して殺したわけではなかったのだ。いや、真実のところは、アッラーが彼を御元に召されたのである。アッラーは偉力並びなく英明であるお方である。》（婦人章4：157－158）

アッラーはイエスの真実性と正統性の証明として、彼にある種の奇跡を行わされました。それらは次に挙げる章句の中に描写されています：

《そして彼（イエス）を、イスラエルの民への使徒とされた。（イエスは言った。）「実に私はあなた方の主から、みしるしを授かって来た。私はあなた方のために、泥で鳥の形を造ろう。そしてそれに私が息を吹き込めば、それはアッラーの御許しの元に鳥になる。また私はアッラーの御許しの元に、盲人や癩患者を治し、また死者を生き返らせよう。また私は、あなた方が何を食べ、何を家に蓄えているかを告げよう。もしあなた方が信仰者であるなら、そこにはあなた方への明らかなみしるしがあるのだ。》（イムラーン家章3：49）

イエスは現在、天国にいます。そして現世の終わりも間もない時に、地上に降臨します。このことは、終末の日の最後の瞬間の大きな予兆の1つとされています。クルアーンにはこうあります。

《彼（イエス）は、われが恩恵をたれたしもべの1人に過ぎない。そしてわれは彼を、イスラエルの民に対する1つの例えとした。》（金の装飾章43：59）

またクルアーンにはこうもあります。

﴿そして実に彼（イエス）は、終末の日の予兆の１つである。それゆえそれ（終末の日）について疑ってはならない。そしてわれに従うのだ。それこそ正しく真っ直ぐな道である。﴾（金の装飾章 43：61）

アッラーが生き物を創造されたのは、ひとえにかれを崇拝させるがためです。そしてかれは彼らがそうするのに必要なだけの糧も供給されました。クルアーンにはこうあります。

﴿われがジン（精霊）と人間を創ったのは、ただわれを崇拝させるためなのである。われは彼らからいかなる糧も必要としないし、彼らがわれを扶養することも求めない。実にアッラーこそは堅固なる偉力を有され、糧を授けられる唯一のお方なのである。﴾（撒き散らす者章 51：56－58）

人間は生得的にアッラーの神性を知り、かれを愛し、崇拝しています。またアッラーのみが占有する権能に関して、そこに別の何かを供与させたりするという行為（シルク）も、生得的には備わっていません。しかし一見美しい欺きの言葉を互いにささやき合う人間とジンからなる悪魔たちが、人間の生得的資質を腐敗させて迷妄への道へと導くのです。

タウヒード[3]は人間に先天的に備わったものですが、多神教、あるいはシルク（タウヒードを害する概念や行い）は後天的で本質的なものではありません。クルアーンにはこうあります。

---

[3] アッラーの唯一性とそれに関連する信仰を指します。

﴾ゆえにあなたは、あなたの顔を純正な宗教[4]へと向けるのだ。そしてアッラーが人間をそのように創られたところのアッラーのフィトラ（正しい先天的資質）に（従え）。アッラーの創造に変更はない。それこそは正しい教えであるのだが、多くの人々は知らないのだ。﴿（ビザンチン章30：30）

また預言者ムハンマド(ﷺ)はこう言われました。

「全ての生まれ来る者は、フィトラ（正しい先天的資質）のもとに誕生する。しかしその両親が彼を、ユダヤ教徒やキリスト教徒、あるいは拝火教徒に変えてしまうのである。」[5]

このように、タウヒードは人間の先天的な信仰であるといえます。

イスラームは、悪魔からのアッラーの守護を受けていた人類の祖アダムによって信仰されていました。そしてそれはまた、彼の死後何世紀にも渡って人々から信仰されました。クルアーンにはこうあります。

﴾人類は元来 1 つの民であった。それからアッラーは預言者たちを、吉報と警告の伝達者として遣わされたのである。﴿（雌牛章 2：213）

人類史上初めて生じたシルク（タウヒードを害する概念や行い）と信仰教義上の逸脱は、やはり人類史最初のアッラーの預言者であったノアの民において生じました。クルアーンにはこうあります。

﴾実にわれら（アッラーのこと）は、ノアや彼以後の預言者たちに啓示したように、あなたにも啓示を下した。﴿

---

[4] アラビア語の「Deen（宗教、教え）」という言葉は通常、クルアーンとスンナ（預言者の言行録）、そして預言者ムハンマドによるその具体的適用を基調とした人生における完全な手法のことを意味します。
また「Haneef（純正な）」という言葉は、全ての誤った教えを放棄して真実の教えであるイスラームへと向かう性質を表しています。

[5] アル＝ブハーリーとムスリムの真正ハディース集より。

（婦人章 4：163）

至高のアッラーへの信仰とかれの崇拝ということの中には、かれの運命付けられたことに対する満足と服従、そしてかれの法を受け入れること、また訴訟や傷害、財産などの諸権利に関する争いにおいてはクルアーンとスンナ（預言者の言行録）に依拠すること、なども含まれてきます。というのもアッラーこそは究極の裁き手なのであり、全ての裁きと審判はかれに属するからです。アッラーの啓示されたものでもって裁くことは、アッラーが統治者たちに定められた義務なのであり、また被統治者も彼らの諸事においてクルアーンとスンナ（預言者の言行録）による裁決を要求する義務があります。統治者に関して言えば、クルアーンの中にはこのような章句があります。

﴾ 実にアッラーは、あなた方が信託[6]をその権利者に対して果たすことを命じられている。またあなた方が人々の間を裁く時は、公正に裁くことを命じられている。アッラーがあなた方に訓戒されていることは、何という恩恵であろうか。 実にアッラーは全てをご覧になられ、 全てをお聞きになられている。﴿（婦人章 4：58）

一方被統治者については、クルアーンにこのような言葉があります。

﴾ あなた方信仰する者よ、アッラーと使徒、及びあなた方の中の権威を委ねられた者たちに従うのだ。そして何かについて争いが起きた時には－アッラーと審判の日を信仰しているというのなら－、それをアッラーと使徒に委ねるのだ。それこそは最善で、また最も優れた結果である。﴿（婦人章 4：59）

[6] 信託という言葉には、アッラーのご命令といったアッラーの諸権利や、人との約束などといった人間の諸権利も含まれています。

ムハンマドとは誰か？

ムハンマド（ﷺ）は、アッラーが人類に遣わされた最後の使徒であり、預言者です。彼のフルネームは、ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・アブドルムッタリブ・ブン・ハーシムです。

その生涯と使命

ムハンマド（ﷺ）は西暦 570 年、いわゆる象の年[7]にマッカにて誕生しました。彼の父親アブドッラーが逝去した後は、彼の祖父アブドルムッタリブが彼の面倒を見ました。当時は、幼児を町から離れた砂漠の健全な環境で養育する習慣がありましたが、乳幼児だった彼もまた遊牧部族の乳母の元に預けられ、そこで数年過ごしました。ムハンマドが 6 歳の時、ズフラ部族出身の彼の母アーミナが亡くなり、また 8 歳の時に祖父アブドルムッタリブが他界しました。

そこで彼は、新たに部族の長となった彼の叔父アブー・ターリブの監督下に入りました。アブー・ターリブは西暦 595 年あたりに彼を連れてシリア方面へ隊商の旅に出、そこで成功に溢れた商売に恵まれました。ムハンマド（ﷺ）はそのしばらく後に再度隊商の旅に出ましたが、その時はクライシュ族の裕福な未亡人ハディージャの商品を託されました。そして彼の信用の高さが彼女の心を捉え、2 人は結婚します。彼女は彼よりも 15 歳も年上の 40 歳でしたが、2

---

[7] エチオピアのキリスト教王国が派遣した象部隊が、カアバ神殿破壊をもくろんでマッカを襲撃した年。しかしその試みはアッラーからの助けにより、失敗に終わりました。

[8] アラビア語で「ラディヤッラーフ・アンフンナ」という言葉で、「彼女たちにアッラーのお悦びあれ」といった意味です。女性の教友たちに対して言われる祈願の言葉です。

人の息子（両方ともに夭折）と4人の娘（ルカイヤ、ザイナブ、ウンム・クルスーム、ファーティマ（رضي الله عنهن）[8]を産みました。ファーティマは後に、預言者の従兄弟であるアリー（ﷺ）[9]の妻となりました。

預言者の使命

預言者ムハンマド（ﷺ）には、ハーシム家やクライシュ族の居住するマッカ近郊の山の洞窟に1人お篭りをする習慣がありました。マッカは当時、"カアバ神殿"の周囲を囲むようなつくりの商業中心都市であり、またその聖域を巡礼で訪れるいかなる者に対しても安全が保障されていました。

西暦610年頃、預言者（ﷺ）は大天使ガブリエル（アラビア語ではジブリール）を仲介として、初めてクルアーンの数句を啓示されました。

それは以下に示すアッラーからの御言葉です：

﴾読め、「創造なされるお方、あなたの主の御名において。かれは人間を、一滴の凝血から創られた。」読め、「そしてあなたの主は、最も尊いお方。筆によって（書くことを）

---

[9] アラビア語で「ラディヤッラーフ・アンフ」という言葉で、「彼にアッラーのお悦びあれ」といった意味です。男性の教友に対して言われる祈願の言葉です。

教えられたお方。人間に未知なることを教えられたお方。」﴾（凝血章 96：1〜5）

ガブリエルはムハンマド（ﷺ）に、「あなたはアッラーの使徒である」と告げました。それ以来彼は逝去するまでアッラーからの直接の啓示を受け続け、それは順次筆録されました。それが最終的に１冊の書物に編纂されたものが、クルアーンです。それは今日に至るまでいかなる改変にも晒されることのなかった、文字通りアッラー御自身の言葉なのです。

ムハンマド（ﷺ）の妻ハディージャにはキリスト教徒の従兄弟がいましたが、彼はそれらの啓示がモーゼやイエス（ﷺ）に下った啓示と同起源かつ同種のものであると証言しました。そしてムハンマド（ﷺ）は初めて啓示を受けた時から、それを人々に伝達することを命じられていました。クルアーンにはこうあります。

﴿（衣に）くるまる者[10]よ、起き上がり、警告するのだ。そしてあなたの主を讃えよ。」﴾（包る者章 74：1−3）

それから間もなくして、何人かの彼に近しい友人たちが彼の言うことを信じ、イスラームを受け入れました。後に彼は公に布教するようになり、彼とその教友たちはアル＝アルカムという教友の家で集会を持ち始めます。当時のマッカの人たちの多くは偶像崇拝者でしたが、彼が公に布教を始めると特に若者たちの間でイスラームへの改宗者が増加し、その一方でその新しい信仰に対する反対論も露わになり始めました。新改宗者の中にはマッカの富裕階層出身者もいた一方、誰も守ってくれる部族のない、社会的立場の弱い人々もいました。

---

[10] 初めて啓示が下された時、ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はその超常現象による余りの恐怖から、妻ハディージャに衣で彼を包んでくれるよう頼みました。

この新しい信仰こそ「全能の唯一神アッラーに完全に服従する」という意味の“イスラーム”であり、その信徒たちは“ムスリム”、つまりアッラーに服従する者たちなのです。

マッカの敵対

マッカにおけるイスラームに対する反対論は、預言者（ﷺ）が偶像崇拝を非難し、タウヒード（アッラーの唯一性に関する信仰教義）を高らかに宣言した時から激しくなりました。

﴾そして彼らがあなたを見れば嘲笑するだけだ。そして（彼らは）こう言うのだ。「これがアッラーが使徒として遣わされた者だって！？もし私たちが確固として（自分たちの信仰のために）耐えなければ、彼は私たちを私たちの神々から迷い去らせようとするところだった。」しかし（彼らはやがて彼らを襲う）懲罰を見る時、最も道に迷い去っていた者たちは誰であったかを知るであろう。﴿（識別章 25：41，42）

敵対者のリーダー的存在であったアブー・ジャハルは、クライシュ族の主要部族 に働きかけ、ムハンマド（ﷺ）の布教を止めず、彼を庇護し続けた ハーシム家との関係を一時絶縁させたりもしました。

預言者ムハンマド（ﷺ）の2大庇護者であった妻のハディージャ（ؓ）[11]と叔父のアブー・ターリブは、西暦619年頃に他界しました。彼は その後も布教を継続し、ターイフ[12]の部族に布教するために旅したりもしましたが、あ えなく失敗して彼らから虐待の憂き目を見たりもしました。そのような中、西暦620年 頃ムハンマ

[11] アラビア語で「ラディヤッラーフ・アンハー」という言葉で、「彼女にアッラーのお悦びあれ」といった意味です。女性の教友に対して言われる祈願の言葉です。

ド（ﷺ）はマディーナの部族と連絡を取り始めましたが、それがきっかけとなって西暦622年のマディーナへの聖遷（ヒジュラ）に繋がることに なります。

マッカにおけるムスリムに対する迫害により、西暦615年には彼らの一部はエチオピアへ聖遷（ヒジュラ）し、その一部はその地に628年まで留まりました。それはつまり預言者（ﷺ）のマディーナ聖遷のかなり後まで続いたということになります。

聖遷

西暦612年夏、毎年恒例の巡礼に参加するために、マディーナから12名の男が マッカを訪れました。彼らは預言者（ﷺ）と密会し、イスラームに改宗しました。そしてマディーナに戻ると、その民に布教を始めました。それから数年後、やはり巡礼時期にマディーナから75人の男性と2人の女性からなる代表団が訪れました。彼らはイスラームへの改宗だけでなく、預言者ムハンマド（ﷺ）への服従と、自らの部族を守るように彼を守るという条項などを含んだ誓約を結びます。

これがいわゆる“アカバの誓約”としてイスラーム史で知られているものです。こうして聖遷（ヒジュラ）へのお膳立てが済み、預言者（ﷺ）は信徒たちに 小さい集団に分かれてマディーナへと向かうよう奨励し始めました。

12 マッカ東方の町。

預言者の教友たちはマディーナへと向けてマッカを後にしましたが、預言者（ﷺ）自身は聖遷（ヒジュラ）に関してのアッラーの許可が下りるの を待って、マッカに留まっていました。アブー・バクルとアリー （ﷺ）[13]、そして自由に移動できなかった者たちと背教を強制された者たち以外の教友は全て、マディーナへと旅立ちました。

そのような中クライシュ族は、預言者ムハンマド（ﷺ）の教友にはクライシュ出身の者の他、様々な部族出身の者がおり、そして彼らが彼らの勢力下から抜け出し、新天地に移って保護を得たことを知りました。そしてムハンマド（ﷺ）も彼らの後を追い、全てのムスリムが彼らの勢力圏から逃れてしまうことを危惧しました。そこで彼らは各部族から一人ずつ若者を選び、彼をいっせいに切りつけて殺害する策略を立てましたが、大天使ガブリエルはムハンマド（ﷺ） に、その夜は自分のベッドでは寝ないように指示しました。その夜、若者達は預言者（ﷺ）の家の扉の外で、彼が眠りに落ちるのを待っていました。預言者（ﷺ）はそれを発見し、彼らの姦計を阻むべく彼らの頭上に砂粒を振り掛けましたが、アッラーのお力により彼らの内の誰一人も彼の姿を見ませんでした。

[13] アラビア語で「ラディヤッラーフ・アンフム」という言葉で、「彼らにアッラーのお悦びあれ」といった意味です。男性の教友たちに対して言われる祈願の言葉です。

預言者（ﷺ）は、アッラーの奇跡によって砂粒で彼らを一時的に盲目にし、そこから脱走したのです。若者たちがそんなことも知らずに屋内に侵入した時、彼らは預言者（ﷺ）の寝ているはずのベッドの上に彼の従兄弟のアリーが寝ているのを発見し、彼らの計画が頓挫したことを知ったのでした。

預言者（ﷺ）はアリー（ؓ）にマッカに留まり、人々が彼に預けていた資財を返却するよう命じましたが、このことは彼の誠実さをよく示しています。預言者（ﷺ）は彼の最も信望厚かった教友アブー・バクル（ؓ）とともにマッカを去りましたが、追っ手をまく目的でマッカ近郊のサウル山に立ち寄り、その洞窟に3日間潜伏しました。その間様々な情報や食料を彼らに調達したのは、アブー・バクルの息子と娘（ؓ）でした。

クライシュ族は預言者（ﷺ）がマッカを脱出したことに気づくと、彼を捕えて連れて帰った者に対して100頭のラクダの賞金を提示しました。しかし結局預言者（ﷺ）とアブー・バクル（ؓ）の乗っていた2頭のラクダは、彼らを無事マディーナまで送り届けました。彼ら2人はヒジュラ暦のラビーウ・アル＝アウワル月に、マディーナ近郊のクバー地区に入りました。教友たちは彼らを出迎え、皆は彼らの到着をこの上ない喜びでもって受け止めました。預言者（ﷺ）　はクバーに4日間滞在し、それからマディーナ入りすると、モスクと自らの住居の建設にかかりました。預言者（ﷺ）がマディーナに到着したのは西暦の622年、彼が53歳の時でしたが、この

日がヒジュラ暦の元年になりました。マディーナはマッカとは違った豊かなオアシスであり、そこにはナツメヤシや穀物が実っていました。

初めてのフトバ（説教）[14]

マディーナ到着後、預言者（ﷺ）は彼自身が行うものとしてはイスラーム史上最初の金曜日のフトバ（説教）を行いました。それは以下のようなものでした：

「人々よ、自分自身のために善行を積むのだ。誰もがいずれは死に、その羊を番人なしに後に残さなければならないことを知っている。実に彼の主は、仲介者を介すことなく彼にこう尋ねる。「お前の元にわが使徒はやってこなかったのか？われはお前に財を与えなかったか？お前にわが恩恵を授けなかったか？一体お前は自分自身のために何を成したのか？？」それからあなた方は右を振り向くが、そこには何もない。左を向いても、何もない。前方に目をやると、そこには地獄の業火があるのみだ。ゆえに地獄の業火から身を守る者は、ナツメヤシの実一粒を半分に裂いたものであっても施すべきである。もしそれさえもないのなら、良い言葉をたった1つ言うだけでもよい。善行（の報奨）というものは、その10倍から700倍にまで増幅されるのであるから。」

さてマディーナは、アル＝アウスとアル＝ハズラジュという2部族が治めていました。そして彼らと共にユダヤ教を奉じる3部族も並存していました。預言者（ﷺ）は信仰者たちの間に兄弟関係を築き上げましたが、それと同様にムスリムと非ムスリムのアラブ人たちとの間にも友好関係を結ぼうとしました。彼はイスラーム以前からの憎しみ合いや部族的対立を廃止することを狙った、ある種の条約を起案しました。彼はイスラーム以前の悪習が彼の作ろうとし

[14] フトバとは、金曜日の集団礼拝の前に先駆けて行われる、ある決まった形式をとった宗教的訓戒・説教のことです。

ていた環境の中に戻ってこないよう、その憲章の全ての箇所に渡って細心の注意を払いました。

預言者ムハンマド（ﷺ）が新しい社会の柱を築いたのは、ひとえに彼の英知と賢明さによるものでした。この現象は良識あるムスリムの中に、はっきりとした跡を残しました。彼は信徒たちをイスラーム的教育の元に育成し、彼らを浄化し、彼らに正しさと高徳を奨励し、彼らの間を愛情と栄光と栄誉で満たしたのです。

預言者（ﷺ）はマディーナ憲章として知られる、有名な文書を作りました。それにより地元のマディーナの各部族と、マッカからの移住者の間に連合が締結されたのです。憲章の中には、全ての争い事は預言者（ﷺ）の裁断に帰されるべきである、という条項も含まれていました。

ムスリムと
マディーナのユダヤ教徒たちとの協約

アッラーの使徒 (ﷺ) はムハージルーン（マッカからの移住者たち）とアンサール（マディーナの援助者たち）に関する文書を作成しましたが、その中には当地のユダヤ教徒たちとの友好関係や彼らの信仰と財産の保障、諸々の相互義務などについても言及されていました。それは以下のようなものでした：

「慈悲深く慈愛あまねきアッラーの御名において。

この文書は信仰者とクライシュ族及びヤスリブ[15]のムスリム、また彼らに従い、あるいは協力し、あるいは彼らと共に戦う者たちの相互関係を定める預言者ムハンマドからのものである。彼らは他の人々とは別の、1つのウンマ（イスラーム共同体・社会）である[16]。

クライシュ族のムハージルーン（マッカからの移住者たち）は従来の習慣に沿って、彼らの間では互いに血債[17]を払う。そして信徒の間では善行と公平をもって、捕虜の身代金を支払う。

バヌー・アウフ族は現行の習慣により、彼らが過去そうしていたように彼らの間で血債を払う。それぞれの派閥がそれぞれの捕虜のために、信徒の間では善行と公平さをもって捕虜の身代金を支払う。

---

15 マディーナの旧称。

16 「他の人々とは別の」という表現の中には、ムハージルーン（ムスリムの移住者たち）とアンサール（マディーナの援助者たち）の他に、マディーナのユダヤ教徒も入っている。

17 「血債」とは傷害や殺人罪に対する賠償金のこと。

バヌー・サーイダ族も現行の習慣により、彼らが過去そうしていたように彼らの間で血債を払う。それぞれの派閥がそれぞれの捕虜のために、信徒の間では善行と公平さをもって捕虜の身代金を支払う。

バヌー・アル＝ハーリス族も現行の習慣により、彼らが過去そうしていたように彼らの間で血債を払う。それぞれの派閥がそれぞれの捕虜のために、信徒の間では善行と公平さをもって捕虜の身代金を支払う。

バヌー・ジュシャム族も現行の習慣により、彼らが過去そうしていたように彼らの間で血債を払う。それぞれの派閥がそれぞれの捕虜のために、信徒の間では善行と公平さをもって捕虜の身代金を支払う。

バヌー・アル＝ナッジャール族も同様である。[18]

更にバヌー・アムル・ブン・アウフ族、バヌー・アル＝ナービト族、バヌー・アル＝アウス族も同様である。[19]

そして信仰者たちは、血債であれ身代金であれ彼らの内で債務で苦しんでいる者が債務遂行することを助ける。

いかなる信仰者も、他の自由民の信仰者と敵対する同盟を締結することは出来ない。

---

[18] 以上は皆、アル＝ハズラジュ族に属する。
[19] 以上は皆、アル＝アウス族に属する。

アッラーを畏れる信仰者は、彼らの権利を蹂躙したり悪行を行ったり、信仰者の間に腐敗を撒き散らすような者たちに対しては、例えそれが自分たちの息子であっても一致団結して立ちはだかる。信仰者は不信仰者に対する報復のために信仰者を殺害することもなければ、信仰者に敵対して非信仰者を助けることもない。アッラーの庇護は1つである。一般信徒は彼ら以外の者に保護を与えることも出来る。

信仰者たちは他の者たちをさしおいて、互いに親愛な者同士である。ユダヤ教徒の内で我々に従う者たちは援助され、また公平に扱われる。彼らは不正を被ることもなく、彼らの敵が援助されることもない。

平和条約は全員に適用される。アッラーの大義ゆえに戦う者である限り、ある信仰者に適用されて他の者たちに適用されないなどということはない。アッラーの大義ゆえの戦いは公正と公平の礎の上に成り立ったものであり、全員に対するものである。全員除外されることはない。それは全員に対して公平で平等なものである。乗り物のない者がいたら、乗り物を持つ者は彼を一緒に乗せてやるべきである。

信仰者は、アッラーの大義ゆえに奪われた命に対して報復する。

神を畏れる信仰者は、その主の正しい導きの中にある。

多神教徒[20]はクライシュ族の生命及び財産に関して、保護を与えることは出来ない。またいかなる法的根拠もなしに信仰者を殺害した者は、被害者の庇護者が血債を拒否した場合、報復の刑に処されることになる。そして信仰者たちはその実行に関し、一致団結して執り行う。

---

[20] マディーナの多神教徒を指すと思われます。

この文書に規定された条項を遵守し、かつアッラーと審判の日を信じる者たちは、ムフディス[21]をかくまったり保護したりしてはならない。そのような事をする者には審判の日、アッラーの呪いとお怒りに触れるであろう。彼からは悔悟も賠償金も受け入れられることはない。そしてあなた方の間に何か争いが生じた時には、アッラーと使徒に判決を委ねるべきである。

信仰者と共に戦う上には、ユダヤ教徒も戦費を負担する。バヌー・アウフ族のユダヤ教徒は1つの共同体であり、ムスリムに宗教があるように彼らにも彼らの宗教がある。そして彼らの内で不正や無法を働いたりする者以外は－彼らは自ら自身を害しているゆえー、彼ら自身と彼らの奴隷の生命は保証される。またアル＝ナッジャール族、アル＝ハーリス族、バヌー・サーイダ族、バヌー・ジュシャム族、バヌー・アル＝アウス族、バヌー・アル＝サアラバ族、その一氏族ジャフナ族のユダヤ教徒、及び彼らの仲間にも同じことが適用される。彼らの内の誰一人として、ムハンマドの許可なしには戦闘に赴くことはできない。ただ被った被害の報復（ゆえに彼らが戦闘に参加すること）に関しては、その限りではない。そして非戦闘員を殺害した者は、あたかも自らと自らの家族を殺害したようなものである。ただその殺害された自身が（そのような事件の原因となった）不正を犯していたのならそれはその限りではなく、アッラーはそれをお赦しになるであろう。ユダヤ教徒もムスリムも、自分たちの経費は自分たちで負担する。彼らはこの文書に敵対するいかなる者からも互いに助け合い、また互い助言を仰ぐべきである。忠義こそは裏切りに対する砦なのだ。

同盟者の過ちに責任を問われることはない。不正を被っている者は助けられなければならない。ユダヤ教徒は戦闘が継続する限り、信仰

[21] 犯罪者、あるいは宗教改変者のこと。

者たちと共に戦費を負担する。そしてヤスリブ（マディーナの旧称）はこの文書の民にとって、侵すことの出来ない神聖な地である。

庇護下にある部外者は、害されることなくその庇護者と同様の扱いを受ける。女性に関しては、彼女の家族の許可なしには庇護を与えることは出来ない。また手におえなそうな争いごとが起きたら、アッラーとその使徒に裁断を仰ぐのである。アッラーはこれらの条項を遵守する者の行いを受け入れられる。

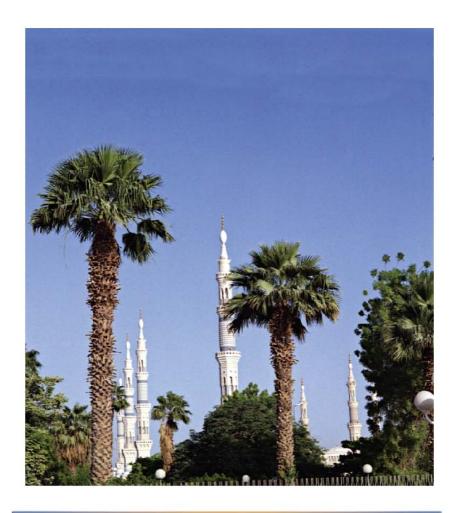
クライシュ（の不信仰者）、及び彼らの盟友には庇護は与えられない。この文書に契約する者はヤスリブが攻撃に晒された時、互いに援助する。そして休戦を求められたらそれを受諾すべきである。全個人は、彼の属する集団からの保護を保障されている。アル＝アウス族のユダヤ教徒には自由民・奴隷共に、この文書に契約した者たちと同様の権利がある。

忠義こそは裏切りに対する砦である。人はその行ったところのものを得る。この文書は不正者や悪行を行う者を守ることはない。アッラーこそが我々の言うところのものの証人であられる。」

しかしユダヤ教徒たちはムハンマド（ﷺ）の文書を認めませんでした。一方でマディーナの住民の殆どはムスリムであり、彼の預言者性と彼が人生のあらゆる面における唯一の権威であることを認めていました。

預言者（ﷺ）はまた、本当にそうしなければならない時以外は他人の援助をみだりに頼りにしてはならないことを教えました。彼はもっぱらその教友たちに訓戒を与え、またアッラーに対する服従行為や崇拝行為による報奨の偉大さや素晴らしさについて、彼らに話し聞かせていたものでした。また彼に下されていた啓示と彼らが心身ともに結びつくよう確かな証拠を提示し、それから布教に関連する諸々の義務や責任を説くのでした。そして同時に、理解と熟慮の必要性を強調していました。

これらは預言者（ﷺ）が道徳の重要性を強調したり、崇高な価値観と理想を彼らの精神に植えつけるための1手段でした。そしてその美徳が次世代へと引き継がれていくため、彼らをその模範とするための手段でもあったのです。

マディーナ初期時代

最初の年は、マディーナ定住のための様々な諸事と共に過ぎていきました。大半のアラブ人はムスリムになっていましたが、一部の者はイスラームに関心のない状態に留まっていました。というのも彼らはムスリムに数で圧倒され、マディーナで勢力を維持するには彼らと共存する以外にはなくなってしまい、それゆえ否応なしにムスリムであるように振舞わずにはいられなくなってしまったからです。このタイプの人々はムナーフィクーン（偽信者）として知られています。

イスラームと利害が衝突するユダヤ教徒は、これら偽信者と多くの点で共通の利益を見出しました。それで彼らは一致し、イスラームに対抗する様々な策略を練ったのです。偽信者は何度となく、アラブの不信仰者たちに対する遠征や戦いに参加することを拒みました。

このような中で至高のアッラーは、信仰者たちが近隣のイスラームの敵や多神教徒と戦う許可を与えられました。預言者（ﷺ）が布教を命じられてから実に13年目のことでした。

彼の聖遷（ヒジュラ）後約1年後に、彼は初の遠征軍を組織して出発しました。彼らはクライシュ族へと歩みを進めていたアル＝アブワー族に対して襲撃しましたが、彼らとの間には講和条約が結ばれ、実際には戦闘をすることなくマディーナに帰還しました。これ以降も預言者（ﷺ）は定期的に遠征軍を派遣し、時には自ら指揮官として参加したりもしました。

そして西暦624年3月ラマダーン月のことです。預言者（ﷺ）は、ウマイヤ族の長アブー・スフヤーンが沢山の資財を積んだクライシュ族の隊商と3〜40人の兵士を率いて、シリアからマッカに向けて帰路の途にあるという情報を耳にしました。そこで預言者（ﷺ）は隊商の通行を妨害するために、315名の男たちを引き連れてマディーナを後にしました。

アブー・スフヤーンは彼らの出陣の情報を得ると、クライシュ族に使いを送りました。そして預言者（ﷺ）とその教友たちが隊商を待ち伏せていることを伝え、財産を守るためにもマッカから援軍を送るように要請しました。クライシュ族はその知らせが届くと、預言者（ﷺ）とその教友たちとの戦闘のために出発しました。

しかしその後アブー・スフヤーンは帰路を変更し、ムスリム軍を回避する事に成功しました。それで彼はクライシュ族に再び使いを送り、彼らにマッカへ戻るよう伝えました。ところがクライシュ族の指導者はそれを拒否し、あくまでムスリム軍との戦闘を主張しました。彼らは900名の兵士とともにバドルという土地近辺まで進軍し、そこに宿営を張りました。

戦闘は当時の慣わし通り個人の一騎打ちによる前哨戦で始まり、それから両陣営は激しい戦闘に入りました。クライシュ族の指導者は次々倒れ、アブー・ジャハルを含む45名の兵士が殺され、70名が捕虜になりました。他方戦死したムスリムは14名でした。この輝かしい勝利はムハンマド(ﷺ)の預言者性の神的証明であり、またムスリム側の大きな士気高揚につながりました。

戦闘が終わってから、預言者（ﷺ）は異教徒達の死体を穴に埋めるように命じました。この勝利の知らせはマディーナまで届き、人々は歓喜しました。預言者（ﷺ）とその教友たちは捕虜を連れてマディーナに帰りましたが、他方マッカ軍は戦死者と損害に嘆きな

がらマッカへ帰りました。尚捕虜となった者たちは自ら身代金を払ったり、あるいはマッカからそれを送金してもらったりして釈放されました。

バドルの戦いにおけるムスリム軍の勝利は、マディーナにおける彼らの最も手強い敵であった偽信者たち、あるいはユダヤ人教徒と盟約する名目的なムスリムたちの弱体化につながりました。そして一方ではこの勝利により、ムスリムはより強力になったのでした。この出来事の後、預言者（ﷺ）はユダヤ教徒のバヌー・カイヌカーウ族を市場に集めて、彼らの前でこう言いました：

「バヌー・カイヌカーウ族よ。クライシュ族が被ったような目に遭う前に、注意するのだ。イスラームを受け入れよ。あなた方は、私があなた方の啓典に記されている預言者であることを知っているのだから。」

しかし彼らはそれを拒み、傲岸な態度を取りました。このことにより、次のアッラーの御言葉が下ったのです：

﴾信仰を拒否する者たちに言ってやるがいい。「あなた方は（現世では）敗北し、（来世では）地獄に集合させられよう。何とひどい行き所であることか。」両軍が遭遇した時、そこにはみしるしがあった。一方はアッラーの道のために戦う軍勢、もう一方は不信仰者の軍勢であった。﴿（イムラーン家章 3：12，13）

バヌー・カイヌカーウ族はマディーナのユダヤ教徒の中で、真っ先にアッラーの預言者（ﷺ）との協約を破った者たちでした。そこで預言者（ﷺ）は彼らが無条件降伏するまで、彼らを包囲しました。 一方クライシュ族はバドルでの敗戦後、マディーナのムスリム国家に対する報復のための遠征資金にアブー・スフヤーンの資財を投入しました。そして西暦 625 年、マッカの民とその同盟者たちを

動員しつつ、今度は 3000 名の兵力でマディーナ郊外まで迫りました。

マッカからの進軍の知らせを聞いた預言者（ﷺ）は、それに呼応して 700 名を引き連れてマディーナを出発し、ウフド山で彼らを待ち受けました。その翌朝マッカの多神教徒たちは攻撃をしかけてきましたが、ムスリム軍の弓による迎撃で大きな被害を出し、撃退されてしまいました。しかしそれに乗じてムスリム軍が追い討ちをかけようとし、弓の射手たちが自分の持ち場を離れたところ、マッカ軍の騎馬兵が手薄になったムスリム軍の側面をついて逆襲してきました。これによりムスリム軍は混乱に陥ったのです。ある者たちは砦を築こうとしましたが、切り崩されてしまいました。それでも預言者（ﷺ）と彼の一派は、敵の騎馬兵の攻撃から安全なオホド山の麓を何とか確保しました。一方でマッカの多神教徒側も損失は大きく、それ以上の被害を与える事が出来ないままマッカに帰還せざるを得ませんでした。

預言者（ﷺ）は兵を引き連れてマディーナに戻りました。しかしその翌日、マッカ軍が態勢を立て直して再度襲来してこようとしていたので、預言者（ﷺ）は彼らの後に追っ手をかけました。これを知ったマッカ軍は攻撃を諦め、撤退しました。

ウフドの戦いではマッカの多神教徒たちは数多くのムスリムを殺しましたが、それでも彼らが望んでいたマディーナのムスリム国家に対する決定的な勝利にはなりませんでした。またムスリムたちにも回復不能なほどの被害を与えたわけでもありませんでした。

それは一時的な力関係の逆転であり､間もなくムスリム側は自信と士気を取り戻しました。

ウフドの戦いから2年後、その間預言者（ﷺ）自身、あるいは彼の任命した者が指揮官として率いる遠征軍を派遣する事で、イスラーム国家は強化されました。このことはまた預言者（ﷺ）の同盟戦略にも益すると同時に、他の者たちがマッカ側と盟約を結ぶことを阻む効果もありました。

ある時ユダヤ教徒のバヌー・アル＝ナーディル族はマディーナの偽信者たちの空約束に騙され、預言者（ﷺ）の暗殺計画に失敗しました。それで預言者（ﷺ）は彼らに攻撃を仕掛け、彼らは降伏しました。彼らは命乞いをし、武器以外の動産を持ってマディーナを去ることを許してくれるよう嘆願し、それは受け入れられました。

ヒジュラ暦5年目の西暦627年、今度はマディーナの別のユダヤ教徒たちがマッカのクライシュ族に派遣団を送り、彼らと協力してマディーナのムスリムを攻撃する策略を彼らに提案しました。それまでマディーナのイスラーム国家によって損失と屈辱の憂き目を味わっていたクライシュ族は、この計画を歓迎しました。そして10000名もの兵を動員し、再びアブー・スフヤーンを指揮官としてムスリムらの壊滅を狙いました。

それを聞いた預言者（ﷺ）は、マディーナ周辺に塹壕を掘るよう命じました。そして自らもその作業に加わり、全ムスリムがそれに参加して一緒に作業することを奨励しました。

マッカ軍がマディーナに到着した頃、塹壕は完成しました。マッカ軍はマディーナの塹壕外に宿営し、約２週間に渡って包囲を続けました。彼らは幾度か塹壕越えを試みましたが、それは失敗しました。そうする内に彼らの馬の飼い葉も底をついてきましたが、預言者（ﷺ）はこの好機を狙って敵軍の間に不和を生じさせることを試み、そしてそれは成功しました。まずユダヤ教徒たちがマッカ軍から離れ、次いでその他のアラブ部族同盟も同様の行動に出ました。

成功の兆しのない包囲の中、ある厳しい寒さの嵐の夜に、アブー・スフヤーンは撤退を決定しました。彼は、今や非常に強大となった預言者（ﷺ）の基盤を崩す望みを失っていました。預言者（ﷺ）はこの年以降はもはやクライシュ族がマディーナに攻めてくる事はなく、むしろこれからはムスリム軍が彼らに対する攻勢に出る旨をムスリムたちに伝えました。そしてその言葉通り、彼らがマディーナに攻めてくることはそれ以降ありませんでした。その後攻撃を仕掛けたのは、マッカ開城の年のムスリムたちだったのです。

このような中マディーナの偽信者達は、マディーナのムスリム国家を何とか切り崩そうと懸命になっていました。彼らの目的は預言者（ﷺ）とその教友たちに終焉が訪れる事であったので、ウフドの戦いの際は彼らを見捨てて撤退し、またユダヤ教徒たちとその点において協力関係にありました。

ユダヤ教徒のバヌー・クライザ族は先の塹壕の戦いにおいてマッカ軍と共謀する事により、従来の預言者（ﷺ）との盟約を破棄しましたが、それは彼ら自身を破滅へと導きました。

バヌー・クライザ族の終焉後の半年間、預言者（ﷺ）は他の多神教徒のアラブ部族を襲撃しました。

休戦

ヒジュラ後6年目にあたる西暦628年、預言者（ﷺ）はムハージルーン（マッカからの移住者たち）とアンサール（マディーナの援助者たち）らと共に、ウムラ（マッカへの小巡礼）を行うことを決心しました。彼らはその道中、アル＝フダイビーヤという地に宿営しました。ところがクライシュ族は更なる屈辱を味わわされることを恐れ、彼らがマッカ入りする事を拒否しました。すんなり彼らをマッカに入城させたら、ムスリムたちが力ずくでマッカに入ったと他のアラブ部族に思われてしまう、と考えたのです。マッカ側は、彼らの決断を伝える代表団をムスリムたちに送りました。その数日後、今度は預言者（ﷺ）がウスマーン（ؓ）をマッカに派遣しました。すると間もなく、ウスマーンがマッカで殺されたと言う噂が流れました。預言者（ﷺ）は、ムスリムたちとその報復を誓い合いました。これが「バイア・アル＝リドワーン（お悦びの誓約）」と言われるものです。その命名の理由は、教友たちが預言者（ﷺ）と誓約したことに関し、アッラーがクルアーンの中でかれのお悦びの旨を述べられたことによっています。しかし結局その噂は間違いということが判明し、クライシュ族の派遣団は預言者（ﷺ）と講和条約を締結する運びとなりました（これが歴史上「アル＝フダイビーヤ協約」として知られるものです）。こうしてマッカ・マディーナ間の交戦状態は終わり、その翌年の西暦629年、ムスリムたちは協約通りウムラ（小巡礼）を実施することが出来ました。

ある種の教友たちはクライシュ族と戦闘を切望していたので、この協約は彼らに対する大きな譲歩であると当初不満を抱いてい

ました。しかし結果的には彼らはそれを受け入れ、彼らがアッラーとその預言者（ﷺ）の命令に従順であることを立証しました。この協約にはまた、ムスリムになりたい者はそうする自由があり、あるいはそれを望む者は自由に預言者（ﷺ）と同盟することが出来るという条項も含まれていました。

この協約の結果、クライシュ族の勢力は衰退しました。何人ものマッカの有力者がイスラームを受け入れ、クライシュ族は更なる屈辱的状態に陥ることになりました。

クライシュ族は協約によって隊商の安全を得ましたが、その一方ムスリムの数が急増することまでは予想していませんでした。協約の大まかな内容は以下のようなものです：

「ムハンマド・ブン・アブドッラーとスハイル・ブン・アムル（クライシュ族の長）は合意する。今後10年間戦闘は放棄され、また敵対的行為も停止される。ただクライシュ族の者で許可なくムハンマドの元へ赴く者があれば、ム

ハンマドは彼をマッカに送還する。一方ムハンマドの支持者の者でクライシュ族の元へ赴く者については、送還しなくてもよしとする。相互に敵対的行為を放棄し、また密にそのような行動に出たり悪い意図を持ったりしてもいけない。ムハンマドと協約や同盟をしたい者はそうする事が出来、同様にクライシュ族とそうしたい者もそうする事から妨げられることはない。」

ただちにフザーア族はアッラーの使徒との協約を締結し、他方バヌー・バクル族はクライシュ側につきました。またクライシュ族は預言者（ﷺ）側にその年にマッカに入ることを禁じましたが、その翌年には3日間だけマッカに滞在する事を許す旨を伝えてきました。

この出来事の前、教友たちは預言者（ﷺ）がマッカに制圧者として入城する夢を見たことを聞いていたので、マッカ制圧に関して何の疑いも持っていませんでした。しかし預言者（ﷺ）が講和のためにクライシュ族に有利な条件で譲歩したことで、意気消沈してしまいました。そのような状況にある時、マディーナへの帰途で預言者（ﷺ）にクルアーンの「勝利の章」が啓示されました。

﴾実にわれら（アッラーのこと）は、あなたに明白な勝利を授けた。それはアッラーが、あなたの今までとこれからの罪をお赦しになり、またあなたへの恩恵を成就され、そして正しく真っ直ぐな道へとお導き下さるようにである。﴿（勝利章 48：1，2）

そしてアッラーは、その使徒との誓いを行った者たちにご満悦になられた旨を明らかにされました。

﴾実にあなたに忠誠を誓う者は、アッラーに忠誠を誓う者である。アッラーの御手は彼らの手の上にあるのだ。﴿（勝利章 8：10）

さて協約の後、クライシュ族と同盟関係にあったバヌー・バクル族は預言者ムハンマド（ﷺ）と同盟を結んでいたフザーア族を攻撃しました。この出来事により休戦条約は破られ、預言者（ﷺ）は条約の解約を通告しました。それから密かにに準備を進め、預言者（ﷺ） はその翌年 10000 名を従えてマッカに進軍します。アブー・スフヤーンらマッカの指導者たちはマッカの外で彼らを出迎え、正式に降伏しました。そして預言者（ﷺ）はマッカの民を全面的に恩赦することを約束しました。彼らのマッカ入城の際には 2 名のムスリムと 28 名のマッカの多神教徒が殺されましたが、その他に目立った抵抗はありませんでした。またムスリムたちに対し裏切りを働いていた者たちは恩赦から除外されていましたが、その内の何名かはその後赦免されました。預言者（ﷺ）は以前追い出される格好でマッカを出て行ったのですが、今度は勝利者として故郷に帰還した形となりました。また強制しなかったにも関わらず、マッカの大半の者たちはイスラームに帰依しました。

預言者（ﷺ）は 18 日間ほどマッカに滞在し、当地の行政的問題にとりかかりました。またカアバ神殿を始め、全マッカから偶像を一掃しました。

マッカ解放後今度はフナインの戦いが起こりましたが、最後に屈強な敵は根絶やしにされました。預言者（ﷺ）のイスラーム国家はアラビア半島において確立を見、殆どのアラブ部族はマディーナに代表団を派遣してイスラームへの帰依を表明しました。

この前年、ウムラ（小巡礼）を果たさずしてマディーナに帰還したことに当初納得のいかなかった教友たちも、この時になってようやくアル＝フダイビーヤの協約の裏に隠された偉大な英知を実感しました。というのもイスラームへの改宗が激増したのは、実にその協約以降のことだったからです。こうして彼らはアル＝フダイビーヤの協約を讃えたのでした。

預言者伝の注釈で有名なイマーム・アル＝ズフリーは、この偉大な出来事について次のように述べています。

「イスラームにおいて、これ以上に偉大な勝利はなかった。戦争状態にある時、人々は互いに知り合う事がなかった。しかし休戦条約が締結されて戦争が休止した時、人々は平和な状況の中で互いに知り合う事が出来たのだ。そしてイスラームを提示された者はもはや改宗をためらわなかった。そしてたった2年間の間に、ムスリムの数は数倍にも増加したのである。」

預言者伝の著者であるイブン・ヒシャームは、このアル＝ズフリーの言葉を裏付ける形でこう言いました：

「アッラーの預言者（ﷺ）は、1400 人のムスリムを率いてアル＝フダイビーヤに向かった。そしてその2年後のマッカ解放の年、彼は何と 10000 人を率いて進軍したのである。」[22]

[22] イブン・ヒシャームの預言者伝、第3巻第333ページ参照

別離の巡礼

西暦 632 年、預言者（ﷺ）はハッジ（大巡礼）を計画し、人々に彼と共に巡礼に参加するように呼びかけました。７万人とも 10 万人とも言われる人々が、彼と共に巡礼したと言われています。その際、預言者（ﷺ）は「別離の説教」としてよく知られている演説をしました。その内容は以下に示す通りです：

「人々よ、よく聞くのだ。この年以後、私はあなた方と共にいるか分からないのだ。

人々よ、聞くのだ。あなた方の生命も財産も、この国におけるこの日、この月の神聖さと同様に神聖なものなのだ。

（イスラーム以前の）無明時代の諸事は、全て私の足下で破棄された。無名時代の血の復讐は、廃棄された。これが適用される最初の例は、バヌー・サアド族に育てられフザイルに殺されたラビーア・ブン・アル＝ハーリスの息子の件である。また無名時代の利子も廃止された。これが適用される最初の例は、アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブの利子の件である。それは全て放棄される。

また女性において、アッラーを畏れよ。あなた方はアッラーの契約の下に彼女らを娶ったのあり、またアッラーの御言葉において彼女らの肉体を合法的なものとしたのであるから。あなた方は妻に対し、彼女らがあなた方の褥に別の者を寝させない権利を有する。もし彼女らがそのような事をしたならば、あなた方は彼女らを罰しても良いが、

度が過ぎないようにせよ。また彼女らはあなた方に対し、食事と衣服を適切な形で与えられる権利を有する。

私はあなた方に、私の（死）後もそれを固守している限りは迷い去ることのないものを残した。それはアッラーの書（クルアーン）である。あなた方は審判の日私について尋ねられるが、一体あなた方はその時どう言うのか？」

聴衆は言いました。「あなたは確かに、あなたの主からのメッセージを伝えられました。また（使徒としての役割を）果たされました。またあなたの共同体に（誠実な）忠告をされました。」

すると預言者（ﷺ）は人差し指を空に向けて指し、それから聴衆に向けて、「アッラーよ、証人たれ。アッラーよ証人たれ。」と3回繰り返しました。[23]

そして預言者（ﷺ）は説教を続けました：

「アッラーが天地を創造された時と同じ原初の形に時間は戻った。つまり1年は12ヶ月あり、その内4ヶ月は神聖な月である。つまりそれらはズー・アル＝カアダ月、ズー・

[23] ムスリム真正ハディース集：ハッジの章147

アル＝ヒッジャ月、そしてアル＝ムハッラム月の連続した3つの月と、ジュマーダー・アル＝サーニー月とシャアバーン月の間のムダル族（に倣って命名されたところ）のラジャブ月である。」

それから預言者（ﷺ）は言った。

「今は何月か？」

聴衆は言った。「アッラーとその使徒が最もよくご存知です。」

預言者（ﷺ）はそれからしばらく沈黙したので、私たちは彼がそれに何か新しい名前を付けるのではと思った。それから彼は言った：

「ズー・アル＝ヒッジャ月だろう？」

聴衆は言った。「そうです。」

預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はまた言った。

「今日は何の日か？」

聴衆は言った。「アッラーとその使徒が最もよくご存知です。」

預言者（ﷺ）はそれからしばらく沈黙したので、私たちは彼がそれに何か新しい名前を付けるのではと思った。それから彼は言った：

「ヤウム・アル＝ナフル（屠殺の日）だろう？」

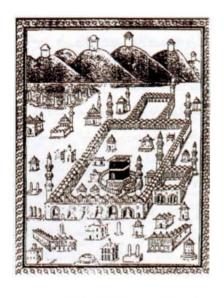
聴衆は言った。「そうです。」

それから預言者（ﷺ）は言った：

「あなた方のこの日が、あなた方のこの町、あなた方のこの月において神聖であるように、あなた方の生命と財産と名誉も神聖なのである。あなた方は必ずやあなた方の主と面会し、そしてあなた方の行った事について訊ねられるだろう。私の（死）後、互いの首を討ちあう不信仰者に舞い戻ってしまわないよう、気を付けよ。今この場にいる者は不在だった者にこの事を伝えるのだ。伝えられた者の方が、伝える者よりもよく理解するかもしれないのだから。」

こうして預言者（ﷺ）は、人々に巡礼の儀式とその手順を示しつつ、ハッジを完遂しました。その後間もなくして彼はマディーナへ帰還し、シリアへの遠征軍を徴集しました。

預言者（ﷺ）はマディーナに戻った後、自分の使命も終わりに近づいていることに気づきました。彼は、預言者としての使命にあった 23 年間に渡って成功に次ぐ成功を授けて下さったアッラーを讃美する生活を過ごしました。ムスリムの数は激増し、マディーナを訪れる代表団が途切れる事はありませんでした。

また彼は、アラブ及び非アラブの王や統治者たちへイスラームの布教目的で使節を派遣する一方、遠征軍も送り続けました。そうするうちに預言者（ﷺ）は病に冒され、別離の巡礼からマディーナに帰還後 4 ヶ月目で息を引き取りました。

預言者（ﷺ）はヒジュラ暦11年のラビーウ・アル＝アウワル月に、ウサーマ・ブン・ザイドを司令官として700名の兵士からなる遠征軍をパレスチナのバルカとダルムの地に派遣していました。それは敵対的な行動を取り始めたローマ軍に対して、イスラーム国家の力を誇示するためでした。しかし遠征軍がマディーナから出発して僅か3マイルの所で、軍は預言者（ﷺ）が危篤との報を受けました。

彼らは野営して更なる知らせを待ちましたが、間もなく彼の逝去の知らせが届きました。ウサーマらは遠征の旅を続行しましたが、これは新カリフ・アブー・バクル・アル＝スィッディークの治世下での最初の遠征になりました。

預言者崩御の様子

預言者（ﷺ）の崩御は、ムスリムに大きな衝撃をもたらしました。

死の苦しみが襲い、彼の健康が衰え始めたとき、彼は最愛の妻アーイシャ（ؓ）の部屋にいました。その時彼女の兄弟のアブドッ

ラフマーンが、ミスワーク（歯磨き用に使う木の枝）を手にやってきました。アーイシャは預言者（ﷺ）がそれを欲しているのを察知し、彼にそれを指して尋ねると、彼は頷きました。アーイシャはそのミスワークの端を噛んで柔らかくし、彼に渡しました。

また彼の近くには、水が入った洗面器が置いてありました。彼はそこに両手を入れ、その濡れた手で顔を洗うと、こう言いました。「アッラー以外に崇拝すべき神はなし。実にこれは死の苦しみだ。」

そして手、あるいは人差し指で空を指しました。彼の声は非常に弱々しくなっていましたが、アーイシャは彼が繰り返しこう言っているのを聞きました：

「（私を）祝福された預言者たちと真実の者たち、そして殉教者たちと正しい者たちとともに（あるようにして下さい）。アッラーよ、私をお赦し下さい。私にお慈悲を垂れて下さい。私は彼ら高貴な者たちと共にあることを選びます。アッラーよ、高貴な者たちと！」

教友たちの崩御に対する反応

預言者（ﷺ）の崩御の知らせは、直ちにマディーナの隅々にまで広がりました。暗い悲嘆がマディーナのあらゆる場所を満たしました。教友のアナスはこう言っています。

「アッラーの使徒（ﷺ）がマディーナにやって来た日ほど明るく素晴らしい良い日はなかった。そして彼が崩御した日ほど、暗くて辛い日はなかった。」

預言者（ﷺ）の娘のファーティマ（ رضي الله عنها ）は言った。

「お父さん！その祈願をアッラーがお答えになられた方。お父 さん！その住まいが天国にある方…。」[24]

[24] アル＝ブハーリーの真正ハディース集、第2巻641

聖書が示す預言者ムハンマド（ﷺ）到来の予兆

ヨハネ伝 14：15－16

「私を愛するならば、私の命を守れ。 そうしたならば私は神に祈り、あなた方と永遠に共にあるだろうもう一人の慰撫者を与えられよう。」

イスラームの神学者たちは「もう一人の慰撫者」とはアッラーの使徒であるムハンマドであり、「ずっと一緒にいる」とは、その聖法と生き方（シャリーア）と彼の授かった啓示（クルアーン）の永遠性であると述べています。

ヨハネ伝 15：26－27

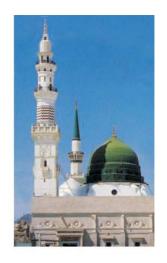
「しかし父、あるいはかれの御許からの聖霊の下から私が送る慰撫者があなた方の下に到来したならば、彼は私を証言するだろう。またあなた方も私とずっと一緒だったのだから、証言するだろう。」

ヨハネ伝 16：5－8

「しかしもう私は、私を遣わされた神の御許へ赴かねばならない。 そしてあなた方は誰も「どこへ行かれるのか？」と訊ねない。それはもし私がこれらのことを言えば、あなた方の心は悲しみで満たされるからである。にも関わらず私は真実を言おう：

私が行かなければ、慰撫者も来ない。そして私が行けば、その人はあなた方の下にやってこよう。

私は彼をあなた方の下に送るであろう。そしてその人がやって来れば、彼は罪悪に溢れたこの世を非難し、正義と判決を勧めるだろう。」

ヨハネ伝 16：12－14

「私にはあなた方に言うべきことは沢山あるが、あなた方にはまだそれを聞く準備が出来てない。しかしどうあれ真実の霊は到来するのであり、彼があなた方を真実へと導くだろう。というのも彼は自ら話すのではなく、彼が聞く全てを話すからである。また彼はあなた方にこれから起こるだろうことを示すだろう。彼は私から受容し、それをあなた方に現そう。そしてそれゆえに彼は私を讃えるであろう。」

ヨハネ伝 16：16

「もうすぐあなた方は私を見なくなるだろう。そしてもうすぐあなた方は私を見るであろう。というのも私は（神である）父の御許へと向かうからである。」

ムスリムの神学者たちは、イエスが前述のくだりの中で彼の後に到来すると予言している人物こそ、アッラーの使徒ムハンマド

(ﷺ) の他にはありえないとしています。イエスがその到来を予言したこの人物は、聖書の中では *Parqaleeta* と呼ばれています。この単語は後代の解釈者、翻訳者などによって聖書から削除され、その代わりに“真実の霊”、あるいは“慰撫者”、あるいは“聖霊”といった言葉に置き換えられてしまいました。その単語はギリシア語由来で、その意味するところは“人々がその性質を非常に称賛する者”というものです。そしてこの意味こそ、アラビア語のムハンマドが示すところの意味なのです。

預言者の容貌と特徴

預言者（ﷺ）の風貌は、その教友たちによって仔細に渡って伝えられています。

預言者の顔

預言者（ﷺ）の顔は美しく、清く、まるで太陽か月のような丸顔でした。喜べば満月のように輝き、怒ったときには紅潮しました。

アル＝バラー（ؓ）はこう伝えています。：「預言者（ﷺ）　はお顔もその人となりも、人々の中で最高のお方だった。」そしてその顔は刀のようであったのか、と訊かれた時、彼は「いや、満月のようだった。」と、あるいは「月のように丸いお顔だった。」と答えました。

アル＝ラビーウ・ブン・ムアッウイズ（ؓ）はこう伝えています：「もし彼を見たら、あなたは“太陽が輝いている”と言ったでしょう。」

ジャービル・ブン・サムラ（ؓ）は預言者（ﷺ）の顔について訊ねられて、こう言いました：「（彼は）太陽か満月のようだった。私は彼が赤みを帯びた衣服を着ているのを見た時、彼を月に形容した。しかし私にとっては、彼は月にも勝るお方であった。」（ミシュカート・アル＝マサービーフ 2：518 より）

またもし彼が顔に汗をかいたならば、そのあご髭は真珠の粒のように輝きました。そして彼の汗の芳香は麝香よりも芳しかったということです。

またその頬は柔らかく、額は広く、眉毛は細く弓形でした。眼は大きく、瞳は漆黒である一方、白目の部分には仄かに赤色も混じっており、また睫毛は長かったと言われています。

そしてその鼻筋は高く、口は大きく、歯間には隙間があったとのことです。彼が微笑むとその歯は小さい雹（ひょう）の粒のように光り、彼が話す時にはそれがまぶしく輝いたといいます。

彼のあご髭は黒く、そして濃く、胸の辺りまで覆っていました。また耳たぶと顎の辺りに、何本かだけ白髪があったと伝えられています。

頭、首、髪の毛

彼の首は長く、頭は大きかったと言われます。髪の毛は軽い巻き毛で、真ん中で分けていました。また時には髪の毛が両肩まで、あるいは耳たぶの辺りまで届く位に伸ばし続けたりもしました。額の上の辺りに少々の白髪がありましたが、髪の毛とあご髭を含めて白髪は 20 本以上はなかったと言われています。

手足

骨太で、ひじ、肩、膝、そして手首は大きく太かったと言われます。また手の平と足も大きかったそうです。腕は太く、毛深く、またかかととふくらはぎは薄かったそうです。彼の肩もまた広く毛深ったようですが、広い胸にはへその辺りまでつながる一筋の毛があった他は胸毛がなかったと言われています。

体型

中肉中背で、体が曲がったりはしていませんでした。彼は背が高かったわけではありませんが、平均よりは上であったようです。

芳香

多くの教友が、預言者（ﷺ）の体から放たれるいかなる香水よりも芳しい芳香について伝えています。

アナス（رضي الله عنه）はこう伝えています。「私は、預言者（ﷺ）の汗の香りよりも芳しい麝香や香水をかんだことはない。またジャービル（رضي الله عنه）はこう伝えます。「その香りは彼が立ち去った後にも残っていたので、空気の匂いによって彼がどの方向へ行ったかが分かるくらいだった。」また彼はこうも伝えています。「彼がもし人と握手したならば、彼の汗はその男の手に丸一日残った。また彼が子供の頭を撫でたならば、人々は彼の頭にその香りを感じたものであった。」またウンム・スライム（رضي الله عنها）は預言者（ﷺ）の汗を小瓶に集め、それを香水と混ぜていました。

歩き方

彼はしっかりと早足で歩きました。足を高く上げて毅然として歩き、またまるで地面が彼に捲り上げられるかのように素早く歩いたそうです。また振り向く時には体全体で振り向きました。またまるで歩き疲れが全くないかのようで、また誰も彼に追いつけませんでした。アブー・フライラ（رضي الله عنه）はこう伝えています。「私は預言者（ﷺ）よりも早足の者を見たことがない。まるで地面自体が彼のために捲り上げられるかのようだった。私たちは彼についていくのに精一杯だったが、彼自身はごく気楽な様子だった。」

声と話し方

少し大きめの声で、弁舌は雄弁でした。また黙っていれば厳かしく、話せば人の心を魅了しました。彼はいつも的をついた話をし、その言葉は明白かつ鮮明でした。また当然のことながら、彼は強力な演説家でもありました。

また彼はアラビア語に堪能で、あらゆる部族の方言や訛りに通じていました。彼は彼を接待する者たちの方言と訛りで話すことが出来、街言葉にも遊牧民の言葉にも長けていました。つまり彼は遊牧民の言葉遣いの流暢さと、定住民の言葉遣いの洗練さを備えたのです。そして何よりもクルアーンに例を見て取れるように、彼にはアッラーのご援助がありました。

性格

預言者（ﷺ）はいつも機嫌よく、微笑んでいました。人から失礼な態度を取られても、他の多くの者のようにそれを同様の失礼な態度で返したりしませんでした。傷つけられ害されるほど、彼の辛抱強さは際立ちました。また無知な者に対しても、寛大でした。また市場などで、声を上げることはありませんでした。

彼は２つの選択肢があれば、それが罪にならない限り、いつも安易な方を選びました。そして何よりも、罪悪から誰よりも遠いところにありました。自分のために報復をしたりはしませんでしたが、アッラーの尊厳が侵された時には怒りました。

彼の勇気と力は抜群で、最も勇敢な人物でした。危機一髪の時も非常に困難な時にも、常に堅固でした。幾度となく勇敢な男たちや命知らずの者たちが彼をさしおいて逃亡した時がありましたが、彼だけは敵に対峙したまま決して踵を返す事がありませんでした。どのように勇気のある者でも少なくとも一度くらいは戦場から退散したり、あるいは退却させられたりしたことはあるものですが、彼に関してはそのような事はありませんでした。アリー（ﷺ）はこう伝えています。

「激戦になると、 私たちは預言者（ﷺ）に助けを求めたものであった。彼は常に敵から一番近い所にいた。」（アル＝シファー1：89）

またアナス（ ）はこう言っています。

「ある晩、マディーナの人たちは怪しい物音を聞いて警戒した。人々は音のする方へ急いだが、預言者（ ）は常に彼らの前にいた。彼は鞍も付けていないアブー・タルハの馬に乗り、首には剣をぶら下げていた。そして彼はこう言っていた。"怖がるのではない、怖がるのではない。"」
（アル＝ブハーリーによる真正ハディース集 1：407）

他方で彼は人々の中で最も謙虚で、最も羞恥心が強かったのです。アブー・サイード・アル＝フドリー（ ）はこう伝えています。

「預言者（ ） は寝台の上の処女よりも羞恥心が強く、また彼が怒った時には私たちはその表情からそれを読み取る事が出来た。」（アル＝ブハーリーによる真正ハディース集 1：504）

また彼が人の顔を凝視することはありませんでした。伏し目がちで、空よりは地面を見ている方が多く、人を見る時はちらりと見るだけでした。人々は望んで、かつへりくだって彼に従いました。悪い噂を聞いた人の名を人前で言及する事はなく、その代わりに「一体これこれの民は…」 といった間接的な言い回しを用いました。また使用人に粗暴にしたこともなければ、誰も彼が野蛮な物言いをするのを聞いた事もありませんでした。

貧者や困窮者を訪れ、彼を慰めるのは彼の習慣の1つでした。招待されれば、例え招待主が奴隷でもそれを受け入れました。彼はごく普通の人物であるかのように、常に友人と共に座っていました。アーイシャ（ ）は、預言者（ ）が自分で靴を修理し、自分の衣服を縫ったり繕ったりし、普通の男が家ですることは何でもしていた、と伝えています。つまり彼は、他の者と同じような1人の普通の人間でした。彼は虫がいないかどうか衣類を調べたり、雌羊のミ

ルクを絞ったり、自分で食事を用意したりごく普通のことを行っていました。（ミシュカート・アル＝マサービーフ 2：521）

また彼はアッラーの使徒（ﷺ）としての使命を受ける前から、既にアル＝アミーン（信頼できる人、誠実な人）として知られていました。彼は人からの預かり物や信託物には細心の注意を払い、人の権利は十分に満たしました。彼はとても柔和で従順な人物でしたが、突然彼を見かけると人は彼に対する畏敬の念を抱いたものでした。また彼を知った者は誰でも、彼を好きになりました。ある者は次のように言っています：

「彼を知って以来、過去にも現在にも彼ほどの人物は見たことがない。」（アル＝ブハーリーによる真正ハディース集 1：503）

預言者の妻たち

預言者（ﷺ）には、11名あるいは12名の妻がいました。彼の崩御の際在命中だったのは、その内9名です。彼女たちは一般的に、信仰者の母たち（ウンムハート・アル＝ムウミニーン）と呼ばれています。その簡単な紹介は次の通りです。

1. ハディージャ・ビント・フワイリド（ر）

預言者(ﷺ)が25歳のときに結婚し、そしてイブラーヒーム を除く彼の全ての子供を出産しました。預言者（ﷺ）は彼女が生きている間は、他の妻を娶りませんでした。彼女は夫が預言者としての使命を負ってから10年後のラマダーン月に65歳で亡くなっています。ハジューンに埋葬されました。

2. サウダ・ビント・ザムア（ر）

彼女はサクラーン・ブン・アムルという自分の従兄弟と結婚しましたが、後に 夫婦でムスリムとなり、迫害を逃れてエチオピアに移住もしました。マッカに期間後サクラーンは死去しましたが、1ヶ月前に妻のハディージャを失っていた預言者（ﷺ）は彼女と結婚しました。ヒジュラ暦54年シャウワール月に他界しました。

3. アーイシャ・ビント・アビー・バクル・アル＝スィッディーク（ر）

預言者（ﷺ）はサウダと結ばれてから丁度１年後のシャウワール月に彼女と結婚しました。彼女は預言者（ﷺ）が結婚した唯一の処女であり、全ての彼の妻の中でも最愛の妻と見られています。また彼女はイスラーム法学史上最も学識のあるムスリム女性でした。ヒジュラ暦57年ラマダーン月17日に亡くなり、アル＝バキーウに埋葬されました。

4. ハフサ・ビント・ウマル・ブン・アル＝ハッターブ（ﷺ）

彼女の夫はバドルの役で負った傷が原因で亡くなったフナイス・ブン・フザイファでしたが、ヒジュラ暦3年シャアバーン月に彼女の喪が解けてから預言者（ﷺ）と結婚しました。ヒジュラ暦45年シャアバーン月、60歳の時にマディーナで亡くなり、アル＝バキーウに埋葬されました。

5. ザイナブ・ビント・フザイマ（ﷺ）

バドルの戦いで殉教したウバイダ・ブン・ハーリス（ﷺ）の未亡人だったという説と、ウフドの戦いで殉教したアブドッラー・ブン・ジャハシュ（ﷺ）と結婚していたという説があります。彼女はヒジュラ暦4年に預言者（ﷺ）と結婚しました。彼女はイスラーム以前の無明時代に、その貧者に対する哀れみの心の強さから“困窮者の母（ウンム・アル＝マサーキーン）”と呼ばれていました。彼女は結婚して僅か8ヵ月後のヒジュラ暦4年ラビーウ・アル＝アーヒル月他界しました。預言者（ﷺ）によって葬儀の礼拝が行われた後、アル＝バキーウに埋葬されました。

6. ウンム・サラマ、又はヒンド・ビント・アビー・ウマイヤ（ﷺ）

アブー・サラマ（ﷺ）と結婚し、数人の子供をもうけましたが、

彼はヒジュラ暦4年ジュマーダー・アル＝サーニー月に亡くなりました。そして同年シャッワール月に預言者（ﷺ）と結婚しました。彼女は偉大な法学者で、当時の最も聡明な女性と見なされています。ヒジュラ暦59年（62年とする説もあり）に84歳で死去し、アル＝バキーウに埋葬されました。

7.　ザイナブ・ビント・ジャハシュ・リカーブ（رضي الله عنها）

彼女は預言者（ﷺ）の叔母、ウマイマ・ビント・アブドル・ムッタリブの娘で、初めはザイド・ブン・ハーリサ（رضي الله عنه）と結婚しました。しかしその後2人の関係に亀裂が入り、ザイドは彼女を離婚しました。ザイドは従来のアラブの習慣によって預言者（ﷺ）の養子となっっていましたが、養父が養子の前妻と結婚することは禁じられていました。しかしアッラーはその従来の慣習を廃棄するため、預言者（ﷺ）が彼女と結婚するよう命じられました。彼女はヒジュラ暦5年ズー・アル＝カアダ月（4年の説もあり）に結婚し、ヒジュラ暦20年に享年53歳で他界しました。預言者崩御後に最初に他界した預言者の妻です。ウマル（رضي الله عنه）によって葬儀の礼拝が執り行われ、アル＝バキーウに埋葬されました。

8.　ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス（رضي الله عنها）

彼女はヒジュラ暦5年か6年のシャアバーン月にバヌー・アル＝ムスタリク族の役で捕虜となり、サービト・ブン・カイスのものとなりました。しかし彼は身代金と引き換えに彼女を解放しようとしたので、預言者（ﷺ）がそれを払い、彼女を解放してから妻としました。他のムスリムたちはこれを見ると、バヌー・アル＝ムスタリク族の100家族にも上る捕虜を解放しました。つまり預言者(ﷺ)が彼女と結婚した事で、彼らが捕虜とした者たちが彼の姻戚関係となったからです。彼女はこうして彼女の部族にとって祝福多い存在となりました。彼女はヒジュラ暦56年のラビーウ・アル＝アウワル月に享年65歳で亡くなりました。

9. ウンム・ハビーバ、又はラムラ・ビント・アビー・スフヤーン（ﷺ）

彼女は、彼女の娘ハビーバにちなんだこの名でよく知られています。彼女はアブー・スフヤーン・ブン・ハルブという預言者（ﷺ）の宿敵だった男の娘として生まれました。彼女はその信仰のために多大な犠牲を払い、迫害を逃れて夫ウバイドゥッラー・ブン・ジャハシュと共にエチオピアに移住したりもしました。その後彼女の夫はキリスト教に改宗して他界しましたが、彼女は自らの信仰を固守しました。預言者（ﷺ）はアムル・ブン・ウマイヤ・ダムリをエチオピア王の下に使節として送った際、当地で未亡人となっていたウンム・ハビーバに結婚の申し込みをしました。エチオピア王は 400 ディナールの結納金をもって彼女を預言者（ﷺ）に嫁がせ、シュラフビール・ブン・ハスナという男を警護につけて彼女を彼の元に届けました。預言者（ﷺ）はハイバルの戦いから帰還後のヒジュラ暦 7 年サファル月、あるいはラビーウ・アル＝アウワル月に彼女と結婚しました。彼女はヒジュラ暦 42 年、あるいは 44 年に亡くなりました。

10. サフィーヤ・ビント・フヤイ・ビン・アフタブ（ﷺ）

彼女はユダヤ教徒のバヌー・アル＝ナディール族首長の娘で、預言者アーロン（ハールーン）の子孫でした。彼女はハイバルの戦いで捕虜となり、その地位により預言者（ﷺ）に与えられます。彼が彼女にイスラームに帰依するよう言うと、彼女はそれを受け入れました。こうして彼は彼女を解放し、ヒジュラ暦 7 年ハイバル制圧の晩に彼女と結婚しました。彼女の亡くなった年ははっきりせず、ヒジュラ暦 36 年、50 年、52 年などの説があります。アル＝バキーウに埋葬されました。

11. マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス・アル＝ヒラーリーヤ（ﷺ）

彼女はアル＝アッバースの妻、ウンム・アル＝ファドル・アル＝クブラー・ビント・アル＝ハーリス・アル＝ヒラーリーヤの姉妹でした。預言者（ﷺ）が彼女と結婚したのはヒジュラ暦7年ズー・アル＝カアダ月のことでした。彼女はマッカ郊外9マイルの地点にあるサルフという場所において娶られましたが、亡くなったのもその同じ場所でした。その没年には諸説あり、ヒジュラ暦38年あるいは61年あるいは62年とも言われています。埋葬されたのもまたその地であり、彼女の埋葬地は現在に至っても知られています。

これら11名の女性たちが妻であったことは確定的ですが、一方ライハーナ・ビント・ザイドがヒジュラ暦6年のムハッラム月に預言者（ﷺ）と結婚したという説もあります。彼女はバヌー・アル＝ナディール族出身で、バヌー・クライザ族の男と結婚していました。しかしバヌー・クライザの役の後、預言者（ﷺ）は彼女を自分のものにしたとも言われますし、解放せずに女中としたとも言われています。彼女は預言者（ﷺ）の別離の巡礼後まもなく他界し、アル＝バキーウに埋葬されました。

また 預言者（ﷺ）には、マーリヤ・アル＝コプティーヤ（コプト教徒のマーリヤ）という女奴隷もいました。彼女はエジプト王ムカウキスの預言者（ﷺ）への贈り物で、預言者（ﷺ）の息子イブラーヒームを出産しました。彼女はヒジュラ暦15年または16年に他界し、やはりアル＝バキーウに埋葬されました。

預言者の子供たち

彼には計7人の子供がいましたが、イブラーヒームを除いては皆ハディージャ（ ）からの子供です。以下にその概略を示しましょう。

1. アル＝カースィム

彼は長男でしたが、2歳のときに夭折しました。預言者（ ）はアブー・アル＝カースィム（アル＝カースィムの父親）と呼ばれていました。

2. ザイナブ

長女で、アル＝カースィムの後に誕生しました。叔母のハーラ・ビント・フワイリドの息子であるアブー・アル＝アース・ブン・ラビーアと結婚しました。アリーという息子とウマーマという娘がいましたが、ウマーマは預言者（ ）の礼拝中に彼の膝の上に乗せられていたことがあったという伝承が残っています。マディーナでヒジュラ暦8年初めに亡くなりました。

3. ルカイヤ

彼女はウスマーン・ブン・アッファーン（ ）と結婚しましたが、 息子のアブドッラーは6歳のとき雄鶏に目を突かれて亡くなってしまいました。彼女はバドルの役の最中に亡くなりましたが、ザイド・ブン・ハーリサが勝利の知らせとともにマディーナに到着した時には、既に彼女の埋葬は終わっいました。

4. ウンム・クルスーム

ルカイヤの死後、バドルから帰還した預言者（ ）は、彼女をウスマーン・ブン・アッファーンに嫁がせました。2人の間に子供

は出来ず、彼女はヒジュラ暦９年に亡くなり、アル＝バキーウに埋葬されました。

5. ファーティマ

末娘で、バドルの役の後にアリー・ブン・アビー・ターリブ(ﷺ)に嫁ぎました。アル＝ハサンとアル＝フサインという息子２人、そしてザイナブとウンム・クルスームという２人の娘をもうけました。彼女は預言者（ﷺ）の崩御の半年後に他界しています。

以上の５人の子供たちは、皆預言者（ﷺ）に啓示が下る前に誕生していました。

6. アブドッラー

彼の誕生はイスラーム以前か以後だったのかには、諸説あります。彼はハディージャ（ﷺ）が最後に産んだ男の子でしたが、やはり夭折しました。

7. イブラーヒーム

ヒジュラ暦９年ジュマーダー・アル＝アウワル月、あるいはジュマーダー・アル＝サーニー月にマディーナで誕生しました。母は預言者（ﷺ）の女中、マーリヤ・アル＝コプティーヤです。ヒジュラ暦10年シャウワール月29日に夭折しています。

ムハンマド(ﷺ)に関する西欧の見解

ジョージ・バーナード・ショーは言いました。

「彼は人類の救済者と呼ばれるべきだ。もし彼のような人物が現代世界において統率権を握ったならば、彼は人々に希求されている平和と幸福をもたらすようなやり方で、数々の問題を解決したことだろう。」（*The Genuine Islam,* Singapore, Vol. 1, No. 8, 1936)

また有名な歴史家ラマルティーヌはこう言っています。

「成した事の偉大さ、そこにおける手段の小ささ、驚異的結果が人間の才能の三大基準であるなら、誰が近代歴史を通してムハンマド以外の偉人の名を挙げることができるだろうか。最も高名な者でも、せいぜい兵器や法律、帝国などを作っただけに過ぎない。彼らが作ったのは単なる物質的な力であり、それは往々にして眼前で瓦解することもありえるのだ。ところがこの男（ムハンマド）は、軍はおろか法律、帝国、民衆、王朝といったものだけでなく、当時全世界の人口の3分の1にあたっていた何百万という人間を動かしたのだ。更に彼は、祭壇、神々、宗教、思想、信仰、魂といったものをも動かした…。勝利への彼の忍耐と野心は1つの帝国を求めていたゆえのものではなく、1つの思想ゆえにのみ捧げられていたのだ。彼の絶えざる祈り、神秘的な神との対話、彼の死とその死に対する勝利など、これら全ては彼の詐欺などではなく、1つの教条を蘇らせる力を彼に与えたところの確固とした信念を証明している。そしてその教条とは2つ

のものからなっていた。つまり神の唯一性と神の非物質性である。前者は神が何であるか、後者は神が何でないかということを教えている。また前者は剣で偽の神々を打ち破り、後者は言葉をもって1つの考えを始めるということでもあるのだ。

哲学者、弁舌家、使徒、法律家、兵士、思想の征服者、偶像崇拝を撤廃した理性的教条の復興者、そして地球上の20に上る帝国と1つの精神的帝国の創設者、それがムハンマドなのだ。人間の偉大さを推し量るあらゆる基準を見てみても、彼ほど偉大な人間が果たしているだろうか？」（Lamartine, *Histoire de la Turquie*, Paris, 1854. Vol. II, pp. 276-277）

またマイケル・H・ハートは言います。

「私が世界で最も影響力のある人々の筆頭にムハンマドを挙げれば、きっと読者たちは驚き、また疑問に思いもするだろう。しかし彼ほど人々から熱狂的な盲従を受け、かつ聖俗を通じて成功したのは、歴史上通しても存在しないのである。」（M. H. Hart, *The 100 : A Ranking of the Most Influential Persons in History*, N.Y., 1978. p. 33）

終わりに

預言者ムハンマド（ﷺ）の性格とその使命と成功、及び全人類にとってのその意義について十分に描写することは殆ど不可能です。彼が１人の卓越したレベルの人間であることは疑いのない事実ですが、私たちに出来るのは彼の重要かつ影響力のある側面を非常に簡潔な形で取り上げる事に過ぎません。ゆえに事実上、この小冊子はこのテーマにおける単なる一瞥、あるいはかいつまみに過ぎません。

アッラーは、アッラーが人々に選ばれた教えへと彼らを導くために預言者ムハンマド（ﷺ）を遣わされました。アッラーの全ての預言者たちは、彼らに課された使命を遂行するために多くの困難に直面しました。ムハンマド（ﷺ）もその例外ではありません。彼はアッラーの唯一性へと人々を呼びかける努力の上で、並ならぬ苦難に襲われました。人々に対する彼の哀れみと慈悲の念、そして愛情、また全てにおいて正義を貫く決意といった要素は、何回でも繰り返し語られるべきでしょう。それは預言者ムハンマド（ﷺ）の名が言及されるたびに、これらのことが思い起こされるためにです。

アッラーがこの僅かな努力に祝福をお与えくださるよう。そして私の崇高な目的における至らなさをお赦しくださるよう。そしてアッラーが、その預言者、その一族、その正しき教友たちを祝福されるよう。またアッラーが審判の日、私たちを預言者の旗の下に集めて下さいますよう。アーミン（そうありますように）！